

# 各科プログラム



# ( 各科プログラムの評価 )

## 1 評価基準

- A ■■■■■■ 目標に到達した
- B ■■■■■■ 目標に近い
- C ■■■■■■ 目標から遠い

## 2 研修医自己評価

各科プログラムは、チェックリストを兼ねるように右端に( )をつけて作成されているので、研修医は各項目について上記評価基準に従い自己評価を行う。

## 3 指導医評価

各科研修終了時に各科の指導医は、研修医の自己評価表を点検の上、評価表に従い各研修医の医学的知識や臨床的技能の修得度のみならず、診療態度や人間性をも含めて総合的に評価を行う。

# 研修医評価表

評価日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

指導医（評価者） \_\_\_\_\_

研修医（被評価者） \_\_\_\_\_

研修科 \_\_\_\_\_ 科

研修期間 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 ~ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

	目標に到達	目標に近い	目標から遠い
1. 臨床判断力	( )	( )	( )
2. 医学知識	( )	( )	( )
3. 情報収集力 / 文献読解力	( )	( )	( )
4. 教育能力 (同僚、スタッフ)	( )	( )	( )
5. 臨床技能			
(1) 病歴聴取	( )	( )	( )
(2) 身体所見の取り方	( )	( )	( )
(3) 基本的検査の実施	( )	( )	( )
(4) 基本的手技の実施	( )	( )	( )
(5) 救急処置	( )	( )	( )
(6) 初期診療計画の立案	( )	( )	( )
(7) 基本的薬剤の使用	( )	( )	( )
(8) 診療記録の作成	( )	( )	( )
(9) 症例呈示	( )	( )	( )
(10) 病歴サマリーの記載	( )	( )	( )
(11) インフォームドコンセント実践	( )	( )	( )
6. 人間性			
(1) 患者への思いやり / 優しさ	( )	( )	( )
(2) 患者 / 家族とのコミュニケーション	( )	( )	( )
(3) 責任感	( )	( )	( )
(4) 向上心 / 努力	( )	( )	( )
(5) 他の医療スタッフとの関係	( )	( )	( )
(6) 医療人としての態度 / 礼儀	( )	( )	( )
(7) 時間 / 約束の厳守	( )	( )	( )
7. 総合評価	( )	( )	( )

8. 当該研修医の長所

9. 当該研修医への建設的 / 実践的批判

各科指導医が研修医の各科研修終了後に記入し臨床研修委員長へ提出。

# 目 次

1	内 科	1
( 1 )	消化器	2
( 2 )	循環器	9
( 3 )	内分泌・代謝	15
( 4 )	腎臓	21
( 5 )	呼吸器	26
( 6 )	血 液	30
( 7 )	神 経	36
( 8 )	アレルギー	40
( 9 )	自己免疫性疾患	42
( 10 )	感染症	45
( 11 )	中毒及び物理的原因による疾患	52
2	外 科	
( 1 )	外 科	54
( 2 )	脳神経外科	56
3	麻酔科	57
4	小児科	58
5	産婦人科	60
6	精神科	62
7	地域医療	69
8	その他	
( 1 )	整形外科	70
( 2 )	皮膚科	72
( 3 )	泌尿器科	73
( 4 )	眼 科	74
( 5 )	耳鼻咽喉科	75
( 6 )	放射線科	76

# 1 . 内科研修プログラム

## 1 研修目標

一般臨床医として、初期診療に必要な基本的内科疾患の知識、技能及び診療態度を修得する。

## 2 研修の内容（到達目標）

( 1 ) このカリキュラムは、内科学会認定内科医研修カリキュラムに準じ、各分野別に作られている（消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー等）別紙カリキュラムの各項目に短期研修の場合、長期研修の場合それぞれに研修レベルを表示してあるのでそれに従って研修する。

( 2 ) 各項目の研修レベルを示すための A B 及び a b c の段階表示について

ア 大文字の A B は知識についてのレベルを示す。

A = 内容を精密に理解している。

B = 概略理解している。

イ 小文字の a b c は検査や診療の手技と経験についてのレベルを示す。

( ア ) 検査や診療の手技については、例えば、血液生化学検査など今日自身で検査そのものを行うことはなくなりましたので、諸検査の施行を適切に指示し、そしてその成績を診断や治療に十分活用できる能力を考え、

a = 独立して完全に行えるだけの能力が要求されるもの

b = 一応経験を持つことが要求されるもの

c = 見学などでその方法について理解していることが要求されるもの

( イ ) 症例の受け持ち経験については、

a = 原則として受け持つこと

b = 可能な限り受け持つこと ( 共同でもよいから受け持つことが望ましい )

c = できれば見学することが望ましい

しかし、この案で a とする症例に必ずしも遭遇するとは限らないので、ここでは特に受持ち症例の種類と数は具体的に定めてありません。受持ち症例として経験できなかった疾患については、経験したと同様の診療知識が得られるよう、また、類似疾患によって得られる知識を応用できるように研修を進めることが望まれます。すなわち、一分野に偏らず各分野にわたり、できるだけ多く経験することが望まれます。

# 消 化 器

## 1 形態、機能、病態生理

ア 消化管、肝、胆、膵、腹膜の形態と機能 ----- A ( )

イ 病態生理 ----- A ( )

(ア) 消化性潰瘍

ヘリコバクター・ピロリ感染

(イ) 門脈圧亢進症

(ウ) 肝性脳症

(エ) 黄疸

(オ) 膵炎

ウ 主要症候 ----- A ( )

嚥下困難、食欲不振、おくび・げっぷ、むねやけ、悪心と嘔吐、  
腹痛、腹部膨満、吐血と下血、便通異常、鼓腸、黄疸、腹水、  
腹部腫瘤

## 2 診断、検査

### (1) 消化管

ア X線検査

(ア) 食道 ----- Ab ( )

(イ) 胃・十二指腸 ----- Ab ( )

(ウ) 小腸 ----- B ( )

(エ) 大腸 ----- Ab ( )

(オ) 腹部単純 ----- Aa ( )

イ 内視鏡検査（直視下生検を含む）

(ア) 食道 ----- Ab ( )

(イ) 胃 ----- Ab ( )

(ウ) 十二指腸 ----- Ab ( )

(エ) 直腸・S状結腸 ----- Ac ( )

(オ) total colonoscopy ----- B ( )

ウ 糞便検査法 ----- Aa ( )

エ 直腸指診 ----- Aa ( )

オ 内視鏡下超音波検査 ----- B ( )

### (2) 肝、胆、膵、腹膜

ア 肝機能検査

(ア) 血清ビリルビン ----- Aa ( )

(イ) ICG試験 ----- B ( )

- (ウ) 血清酵素 ----- A a ( )  
 トランスアミナーゼ ( G O T または A S T 、 G P T または A L T )  
 アルカリホスファターゼ ( A L P ) 、 コリンエステラーゼ ( C h E )  
 乳酸脱水素酵素 ( L D H ) 、 ロイシンアミノペプチダーゼ ( L A P )  
 - グルタミルトランスペプチダーゼ ( - G T P )  
 A L P アイソザイム , L D H アイソザイム
- (I) 血清蛋白分画 ----- A a ( )
- (オ) 免疫グロブリン ----- A a ( )
- (カ) 血清膠質反応 ( T T T , Z T T ) ----- A a ( )
- (キ) 血清コレステロール ----- A a ( )  
 コレステロールエステル ----- B ( )
- (ク) 血中脂質分画 ----- B ( )
- (ケ) 血清胆汁酸 ----- B ( )
- (コ) プロトロンビン時間、ヘパプラスチンテスト ----- A a ( )
- (サ) 尿ビリルビン、ウロビリノーゲン ----- A a ( )
- イ 肝炎ウイルスマーカー
- (ア) H A 抗体、I g M 型 H A 抗体 ----- A ( )
- (イ) H B s 抗原・抗体 , H B e 抗原・抗体、H B c 抗体・I g M 型  
 H B c 抗体、D N A ポリメラーゼ、H B V - D N A ----- A ( )
- (ウ) Pre C - mutant ----- B ( )
- (I) H C V 抗体、H C V - R N A 、 Subtype ----- A ( )
- (オ) H C V core A b ----- B ( )
- ウ 免疫学的検査
- (ア) 抗ミトコンドリア抗体 ----- B ( )
- (イ) L E 細胞、L E テスト、抗核抗体 ----- B ( )
- (ウ) リンパ球刺激試験 ( L S T ) ----- B ( )
- (I) 血清補体価 ----- B ( )
- (オ) T ・ B - cell ----- B ( )
- (カ) C D 3 ・ C D 4 ・ C D 8 ----- B ( )
- エ 腫瘍・腫瘍関連マーカー
- (ア) A F P 、 P I V K A - ----- A a ( )
- (イ) C E A ----- A a ( )
- (ウ) C A 19-9 ----- A a ( )
- (I) C A 125 ----- A a ( )
- オ 十二指腸ゾンデ法 ----- B ( )
- カ X 線検査法
- (ア) 低緊張性十二指腸造影 ----- B ( )
- (イ) 胆道造影
- a 経口 ----- B ( )

- b 静注（点滴静注法 D I Cを含む） ..... A b ( )
- c 経皮経肝胆道造影（ P T C ） ..... A c ( )
- d 内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ E R C P ） ..... A c ( )
- (ウ) 血管造影
  - a 腹腔内選択的動脈造影（ D S Aを含む） ..... A c ( )
  - b 門脈造影 ..... B ( )
  - c 肝静脈造影 ..... B ( )
- (I) リンパ管造影 ..... B ( )
- キ 肝・胆道シンチグラフィ ..... A c ( )
- ク 超音波診断法 ..... A a ( )
  - 内視鏡下超音波検査 ..... B ( )
  - 超音波カラードップラ法 ..... B ( )
- ケ 腹部 C T ..... A a ( )
- コ 腹部 M R I ..... A b ( )
- サ 腹腔鏡検査 ..... B ( )
- シ 肝生検法 ..... B ( )
- ス 腹水の検査と細胞診 ..... A a ( )
- セ 胆道鏡 ..... B ( )
- ソ 膵酵素測定
  - (ア) 尿アミラーゼ、血清アミラーゼ、アミラーゼアイソザイム ..... A a ( )
  - (イ) 血清リパーゼ、エラスターゼ 1、トリプシンなど ..... A a ( )
- タ 膵外分泌検査
  - (ア) アミラーゼ・クレアチニンクリアランス比 ..... B ( )
  - (イ) P F D 試験 ..... B ( )
  - (ウ) セクレチン試験 ..... B ( )
- チ 血糖検査（ブドウ糖負荷試験） ..... A a ( )

### 3 治療

- (1) 消化器疾患の薬物療法 ..... A b ( )
  - ア 消化管
    - 歯科口腔用薬、消化性潰瘍薬（ H<sub>2</sub>-blocker、 P P I など）、  
健胃消化薬、制酸薬・緩下薬・浣腸、止痢薬、整腸薬
  - イ 肝臓
    - インターフェロン、副腎皮質ステロイド、ラクツロース、  
特殊アミノ酸製剤、グリチルリチン製剤、 U D C A
  - ウ 胆道・膵
    - 利胆薬、胆石溶解薬、蛋白分解酵素阻害薬
- (2) 消化器疾患の生活指導および食事療法 ..... A b ( )

- (3) 消化器疾患の一般処置 ----- A b ( )  
胃洗浄、浣腸・高圧浣腸、人工肛門洗浄、腹水穿刺・排液
- (4) 消化器疾患の救急処置 ----- A b ( )  
急性腹症、消化管出血、ショック、肝性昏睡、化膿性胆管炎、  
重症急性膵炎、劇症肝炎、腫瘍など
- (5) 消化器疾患の手術適応の決定 ----- A b ( )
- (6) 放射線療法 ----- B ( )
- (7) 特殊療法
- ア 消化管
- (ア) 食道バルーンタンポナーデによる止血 ----- A c ( )
- (イ) 食道静脈瘤硬化療法、EVL ----- A c ( )
- (ウ) 内視鏡的止血法 ----- A c ( )
- (エ) 内視鏡的粘膜切除術（ポリープ切除術を含む） ----- A c ( )
- (オ) 内視鏡的異物除去 ----- A c ( )
- (カ) イレウス管挿入 ----- A c ( )
- イ 肝、胆、膵
- (ア) 経皮経肝胆道ドレナージ ----- A c ( )
- (イ) 経皮的腫瘍・嚢胞ドレナージ ----- A c ( )
- (ウ) 内視鏡的乳頭切開術 ----- A c ( )  
内視鏡的結石摘出・破碎術（胆道鏡下を含む） ----- A c ( )
- (エ) 内視鏡的胆汁ドレナージ ----- A c ( )
- (オ) 体外衝撃波胆石破碎療法 ----- A c ( )
- (カ) 腹腔鏡下胆嚢摘出術 ----- B ( )
- (キ) 経動脈的塞栓療法、動注療法 ----- A c ( )
- (ク) 経皮的門脈塞栓術 ----- B ( )
- (ケ) 血漿交換 ----- A c ( )
- (コ) 温熱療法 ----- B ( )
- (サ) 経皮的エタノール注入療法 ----- A c ( )

#### 4 各論

##### (1) 消化管

###### ア 口腔・咽頭疾患

- (ア) 口内炎 ----- B ( )
- (イ) 舌炎 ----- B ( )

###### イ 食道疾患

- (ア) 食道炎 ----- A c ( )
- (イ) 食道潰瘍 ----- B ( )
- (ウ) アカラシア ----- B ( )
- (エ) 食道良性潰瘍 ----- B ( )

- (オ) 食道癌 ----- A b ( )
- (カ) 食道肉腫 ----- B ( )
- (キ) 食道裂孔ヘルニア ----- A b ( )
- (ク) 食道憩室 ----- B ( )
- (ケ) 食道静脈瘤 ----- A b ( )
- ウ 胃・十二指腸疾患
- (ア) 急性胃粘膜病変（急性胃炎を含む） ----- A a ( )
- (イ) 慢性胃炎 ----- A a ( )
- (ウ) 十二指腸炎 ----- A c ( )
- (エ) 胃・十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍 ----- A a ( )
- (オ) 胃上皮性良性腫瘍（ポリープを含む） ----- A b ( )
- (カ) 胃腺腫 ----- A c ( )
- (キ) 胃癌（早期胃癌を含む） ----- A a ( )
- (ク) 胃悪性リンパ腫 ----- A c ( )
- (ケ) 胃粘膜下腫瘍（胃筋原生腫瘍を含む） ----- A c ( )
- (コ) 十二指腸腫瘍（乳頭部腫瘍を含む） ----- B ( )
- (サ) 急性胃拡張 ----- B ( )
- (シ) 胃捻転症 ----- B ( )
- (ス) 胃・十二指腸憩室 ----- B ( )
- (セ) 胃切除後症候群 ----- B ( )
- (ソ) Menetrier病 ----- B ( )
- (タ) Mallory-Weiss症候群 ----- A c ( )
- (チ) 消化管アニサキス症 ----- A c ( )
- (ツ) 胃静脈瘤 ----- A c ( )
- エ 腸疾患
- (ア) 常習便秘症 ----- A a ( )
- (イ) 過敏性大腸症候群 ----- A a ( )
- (ウ) 虫垂炎 ----- A a ( )
- (エ) 感染性大腸炎（細菌性食中毒を含む） ----- A a ( )
- (オ) 潰瘍性大腸炎 ----- A b ( )
- (カ) Crohn病 ----- A c ( )
- (キ) 腸結核症 ----- B ( )
- (ク) 偽膜性大腸炎 ----- B ( )
- (ケ) 薬剤性出血性大腸炎 ----- B ( )
- (コ) 虚血性大腸炎 ----- A c ( )
- (サ) 腸管Behcet病 ----- B ( )
- (シ) 単純性潰瘍 ----- B ( )
- (ス) 大腸ポリープ ----- A a ( )
- (セ) 消化管ポリポーシス ----- B ( )

- (ウ) 大腸癌 ----- A a ( )
- (エ) 腸悪性リンパ腫 ----- B ( )
- (オ) 小腸腫瘍 ----- B ( )
- (カ) 消化管カルチノイド ----- B ( )
- (キ) 腸狭窄・腸閉塞（イレウス） ----- A a ( )
- (ク) 腸間膜血管の塞栓、血栓 ----- B ( )
- (ケ) 吸収不良症候群 ----- B ( )
- (コ) 蛋白漏出性胃腸症 ----- B ( )
- (サ) 乳糖不耐症 ----- B ( )
- (セ) 盲係蹄症候群 ----- B ( )
- (ソ) 腸憩室 ----- A c ( )
- (タ) Hirschsprung病 ----- B ( )

(2) 肝臓

- (ア) 急性肝炎 ----- A a ( )  
A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、その他のウイルス肝炎
- (イ) 劇症肝炎、亜急性肝炎、重症型急性肝炎 ----- A c ( )
- (ウ) 慢性肝炎 ----- A a ( )
- (エ) 自己免疫性肝炎（ルポイド肝炎を含む） ----- B ( )
- (オ) 肝硬変 ----- A a ( )
- (カ) 原発性胆汁性肝硬変 ----- B ( )
- (キ) アルコール性肝障害 ----- A a ( )
- (ク) 薬物性肝障害 ----- A a ( )
- (ケ) 体質性黄疸 ----- B ( )
- (コ) 脂肪肝 ----- A c ( )
- (サ) 代謝性肝障害 ----- B ( )  
ヘモクロマトーシス、Wilson病、アミロイド肝
- (シ) 特発性門脈圧亢進症（IPH） ----- B ( )
- (ス) 肝外門脈閉塞症 ----- B ( )
- (セ) Budd-Chiari症候群 ----- B ( )
- (ソ) うっ血肝 ----- B ( )
- (タ) 肝腫瘍 ----- A c ( )
- (チ) 肝寄生虫症（日本住吸虫症、肝包虫症、肝吸虫症など） ----- B ( )
- (ツ) 肝嚢胞 ----- A a ( )
- (テ) 肝血管腫 ----- A a ( )
- (ト) 肝良性腫瘍（肝腺腫を含む） ----- B ( )
- (ナ) 原発性肝癌（肝細胞癌・胆管細胞癌） ----- A a ( )
- (ニ) 転移性肝癌 ----- A b ( )
- (ヌ) 限局性結節性過形成（FNH） ----- B ( )

(3) 胆道

- (ア) 胆石症 ..... A a ( )
- (イ) 胆道感染症 (胆嚢炎・胆管炎) ..... A a ( )
- (ウ) 胆嚢腺筋症 ..... A c ( )
- (エ) 胆嚢小隆起性病変 (ポリープを含む) ..... A b ( )
- (オ) 胆道腫瘍 ..... A c ( )
- (カ) 先天性胆管拡張症 ..... B ( )
- (キ) 膵胆管合流異常 ..... B ( )
- (ク) 原発性硬化性胆管炎 ..... B ( )
- (ケ) 胆道ジスキネジー ..... B ( )

(4) 膵臓

- (ア) 急性膵炎 ..... A c ( )
  - 重症急性膵炎 ..... A c ( )
- (イ) 慢性膵炎 ..... A c ( )
- (ウ) 膵嚢胞 (非腫瘍性) ..... A c ( )
- (エ) 膵嚢胞腫瘍 ..... A c ( )
- (オ) 膵癌 ..... A c ( )
- (カ) 粘液産生膵腫瘍 (膵管内乳頭腫瘍) ..... A c ( )
- (キ) 膵内分泌腫瘍 ..... A c ( )
  - ガストリノーマ (Zollinger-Ellison症候群)、インスリノーマ、  
グルカゴノーマ、非機能性内分泌腫瘍など

(5) 腹膜

- (ア) 急性腹膜炎 ..... A a ( )
- (イ) 癌性腹膜炎 ..... A a ( )
- (ウ) 腹膜為粘液腫 ..... B ( )
- (エ) 横隔膜下膿瘍 ..... B ( )
- (オ) 後腹膜腫瘍 ..... B ( )
- (カ) 鼠径ヘルニア ..... A c ( )
- (キ) 腹壁ヘルニア ..... A c ( )

# 循環器

## 1 形態、機能、病態生理

- ア 心臓・血管の形態と機能 ----- A ( )
- イ 循環器系の発生と異常 ----- B ( )
- ウ 循環動態と循環調節 ----- A ( )
- エ 不整脈 ----- A ( )
- オ 心不全、ショック ----- A ( )
- カ 虚血 ----- A ( )
- キ 粥状動脈硬化 ----- A ( )
- ク 主要症候 ----- A ( )  
動悸、呼吸困難、胸痛、失神、浮腫、チアノーゼ、血痰、咳嗽

## 2 診断、検査

- ア 身体所見 ----- A a ( )
- イ 心電図学的検査
  - (ア) 心電図波形診断 ----- A a ( )
  - (イ) 不整脈の診断
    - a 日常みられる不整脈 ----- A a ( )
    - b 心筋梗塞による致死性不整脈 ----- A a ( )
    - c 薬物、その他の原因による不整脈 ----- A b ( )
  - (ウ) 運動負荷心電図 ----- A a ( )
  - (エ) His束心電図および電気生理学的検査 ----- B ( )
  - (オ) Holter心電図(長時間心電図) ----- A b ( )
- ウ X線診断法
  - (ア) 各方向から撮影した心血管撮影 ----- A a ( )
  - (イ) 心室造影 ----- A c ( )
  - (ウ) 大動脈造影 ----- A c ( )
  - (エ) 冠動脈造影 ----- A c ( )
  - (オ) 末梢血管造影 ----- A c ( )
  - (カ) D S A ----- A c ( )
  - (キ) C T ----- A c ( )
- エ 心音図および心機図
  - (ア) 一般心音図 ----- A c ( )
- オ 心血管超音波検査法(心エコー図)
  - (ア) Mモード ----- A b ( )
  - (イ) 断層法 ----- A b ( )
  - (ウ) ドプラ法 ----- A c ( )

(I) 経食道エコー	-----	Ac	( )
(オ) 運動、薬物負荷エコー	-----	Ac	( )
カ カテーテル検査法			
(ア) 右心カテーテル(スワン・ガンツ)	-----	Ab	( )
(イ) 左心カテーテル	-----	Ac	( )
(ウ) 心拍出量測定	-----	Ab	( )
(エ) 弁口面積、シャント量測定	-----	Ac	( )
キ 生化学的検査			
(ア) 血清酵素	-----	Aa	( )
(イ) 電解質	-----	Aa	( )
(ウ) 血清脂質	-----	Aa	( )
(エ) 血液ガス	-----	Aa	( )
(オ) 心筋成分(ミオシン軽鎖、トロポニン)	-----	Aa	( )
ク 核医学的検査法			
(ア) 心筋還流イメージング	-----	Ac	( )
(イ) 心プールシンチグラフィ	-----	Ac	( )
(ウ) RIアンジオグラフィ	-----	Ac	( )
(エ) 肺シンチグラフィ(肺の換気、灌流スキャン)	-----	Ac	( )
ケ MRI	-----	Ac	( )
コ 高血圧症に関する検査法			
(ア) 血圧測定法	-----	Aa	( )
(イ) 眼底検査	-----	Aa	( )
(ウ) 腎盂造影	-----	Aa	( )
(エ) レノグラフィ、レノシンチグラフィ	-----	Ac	( )
(オ) 血漿レニン活性	-----	Ab	( )
(カ) カテコールアミン	-----	Ab	( )
(キ) アルドステロン	-----	Ac	( )
(ク) 腎・副腎静脈カテーテル	-----	B	( )
(ケ) 腎動脈造影	-----	B	( )
サ 心筋生検法	-----	B	( )
3 治療			
ア 強心薬、利尿薬	-----	Aa	( )
イ 抗不整脈薬	-----	Aa	( )
ウ 抗狭心症薬	-----	Aa	( )
エ 降圧薬	-----	Aa	( )
オ 血管拡張療法	-----	Aa	( )
カ 抗凝固療法	-----	Aa	( )
キ 抗高脂血症薬	-----	Aa	( )

ク	血栓溶解療法（PTCRを含む）	Ac	（ ）
ケ	補助循環（IABP、PCPSなど）	B	（ ）
コ	救急処置		
	（ア）ショック	Aa	（ ）
	（イ）心肺蘇生	Aa	（ ）
	（ウ）急性肺水腫	Aa	（ ）
サ	ペースメーカー		
	（ア）体外式	Ac	（ ）
	（イ）埋込式	Ac	（ ）
シ	除細動		
	（ア）緊急	Aa	（ ）
	（イ）待機的	Ac	（ ）
ス	カテーテル治療法		
	（ア）PTCA	Ac	（ ）
	（イ）new device	B	（ ）
	（ウ）カテーテルアブレーション	B	（ ）
	（エ）PTMC	Ac	（ ）
セ	心臓手術適応の決定	Ac	（ ）
ソ	心疾患患者の妊娠、出産などの可否の決定	Ac	（ ）
タ	血液透析・濾過法	Ac	（ ）
チ	リハビリテーション	Ac	（ ）
ツ	生活指導、食事療法および運動療法	Ac	（ ）

#### 4 各論

ア	虚血性心疾患		
	（ア）危険因子	Aa	（ ）
	（イ）狭心症		
	a 労作性	Aa	（ ）
	b 不安定	Aa	（ ）
	c 異型	Aa	（ ）
	（ウ）心筋梗塞	Aa	（ ）
	（エ）無症候性心筋虚血	Ac	（ ）
	（オ）虚血性心筋症	Ac	（ ）
イ	高血圧症		
	（ア）本態性	Aa	（ ）
	（イ）腎性（腎血管性を含む）	Aa	（ ）
	（ウ）内分泌性	Ac	（ ）
	（エ）その他の原因によるもの	B	（ ）

ウ 不整脈

(ア) 頻脈性不整脈

- a 期外収縮 ----- A a ( )
- b 頻拍症 ----- A a ( )
- c W P W 症候群に伴うもの ----- A a ( )
- d 心房細動・粗動 ----- A a ( )
- e 心室細動、心室性頻拍 ----- A a ( )

(イ) 徐脈性不整脈

- a Sick Sinus症候群 ----- A a ( )
- b 房室ブロック ----- A a ( )

(ウ) Adams-Stokes症候群 ----- A b ( )

(エ) Q-T延長症候群 ----- B ( )

エ リウマチ性心疾患

(ア) リウマチ熱 ----- A c ( )

(イ) リウマチ性心炎 ----- B ( )

オ 感染性心内膜炎

(ア) 亜急性細菌性心内膜炎 ----- A b ( )

(イ) 急性細菌性心内膜炎 ----- A b ( )

(ウ) その他 ----- B ( )

カ 弁膜症

(ア) 僧帽弁狭窄 ----- A b ( )

(イ) 僧帽弁閉鎖不全 ----- A b ( )

(ウ) 大動脈弁狭窄 ----- A b ( )

(エ) 大動脈弁閉鎖不全 ----- A b ( )

(オ) 連合弁膜症 ----- A b ( )

(カ) 三尖弁閉鎖不全 ----- A b ( )

(キ) 非リウマチ性弁膜症 (僧帽弁逸脱症、二尖大動脈弁、  
乳頭筋不全症候群) ----- A b ( )

キ 先天性疾患

(ア) 心房中隔欠損 ----- A b ( )

(イ) 心室中隔欠損 ----- A b ( )

(ウ) 動脈管開存 ----- A c ( )

(エ) 肺動脈狭窄 (弁下、弁、末梢) ----- A c ( )

(オ) Fallot四徴 ----- A b ( )

(カ) Eisenmenger症候群 ----- B ( )

(キ) 心内膜床欠損 ----- B ( )

(ク) Ebstein奇型 ----- B ( )

(ケ) 大動脈縮窄 ----- B ( )

(コ) その他の先天性疾患 ----- B ( )

ク 心膜疾患

- (ア) 急性心膜炎（特発性、その他） ..... A b ( )
- (イ) 収縮性心膜炎 ..... A c ( )
- (ウ) その他の心膜炎 ..... B ( )
- (エ) 心タンポナーデ ..... A c ( )

ケ 心筋疾患

- (ア) 急性心筋炎 ..... A c ( )
- (イ) 慢性心筋炎 ..... B ( )
- (ウ) 拡張型心筋症 ..... A b ( )
- (エ) 肥大型心筋症 ..... A b ( )
- (オ) 拘束型心筋症 ..... B ( )
- (カ) アルコール型心筋疾患 ..... A c ( )
- (キ) その他の二次性心筋疾患 ..... B ( )

コ 心臓腫瘍（粘液腫など） ..... B ( )

サ 肺性心疾患

- (ア) 肺高血圧症（原発性、二次性） ..... A b ( )
- (イ) 肺性心 ..... A b ( )
- (ウ) 肺塞栓 ..... A b ( )

シ 各種疾患における循環異常

- (ア) 甲状腺機能亢進症 ..... A b ( )
- (イ) 甲状腺機能低下症 ..... A b ( )
- (ウ) 貧血 ..... A c ( )
- (エ) 尿毒症 ..... A c ( )
- (オ) 電解質代謝異常 ..... A c ( )
- (カ) 膠原病 ..... A c ( )
- (キ) その他 ..... B ( )

ス 動脈疾患

- (ア) 動脈硬化症 ..... A b ( )
- (イ) 解離性大動脈瘤 ..... A a ( )
- (ウ) 大動脈瘤 ..... A b ( )
- (エ) 大動脈以外の動脈瘤 ..... B ( )
- (オ) 大動脈炎症候群（高安病） ..... A b ( )
- (カ) 閉塞性末梢動脈硬化症 ..... A b ( )
- (キ) その他の動脈疾患 ..... B ( )

Buerger病、血栓塞栓症など

- (ク) Raynaud病、Raynaud症候群 ..... A c ( )
- (ケ) Marfan症候群 ..... A c ( )
- (コ) 大動脈輪拡張症 ..... B ( )

セ 静脈疾患

- (ア) 上大静脈閉塞症 ..... Ac ( )
- (イ) 下大静脈閉塞症 ..... Ac ( )
- (ウ) 静脈血栓症 ..... Ab ( )
- (エ) 静脈瘤 ..... Ab ( )
- ソ 心臓神経症 ..... Ab ( )
- タ 起立性低血圧症 ..... Ab ( )
- チ 突然死 ..... Ab ( )
- ツ 心疾患患者と全身麻酔 ..... Ac ( )

# 内 分 泌

## 1 形態、機能、病態生理

- ( 1 ) 内分泌腺の種類と構造 ----- A ( )
- ( 2 ) ホルモンの種類と化学構造 ----- A ( )
- ( 3 ) ホルモンの合成、分泌、作用および代謝 ----- B ( )
- 視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモンとカルシトニンおよび活性型ビタミンD、インスリンおよびグルカゴン、副腎皮質ホルモン、副腎髄質ホルモン、性腺ホルモン、レニンおよびアンジオテンシン
- ( 4 ) ホルモンの臨床薬理 ----- B ( )
- ( 5 ) 主要症候および所見 ----- A ( )
- 甲状腺腫、肥満とやせ、成長障害、乳漏症、無月経、インポテンス、多飲・多尿、色素沈着、多毛、テタニー、発汗異常、性分化異常、女性化男性化、電解質異常、高血圧、低血圧、高血糖、低血糖

## 2 診断、検査

### ( 1 ) 内分泌機能検査法

#### ア 視床下部・下垂体前葉機能

- ( ア ) 成長ホルモン分泌機能 ----- A c ( )
- ( イ ) A C T H 分泌機能 ----- A c ( )
- ( ウ ) ゴナドトロピン分泌機能 ----- B ( )
- ( エ ) T S H 分泌機能 ----- B ( )
- ( オ ) プロラクチン分泌機能 ----- B ( )

#### イ 下垂体後葉機能 ----- B ( )

#### ウ 甲状腺機能 (免疫学的検査も含む) ----- A b ( )

#### エ 副甲状腺機能 ( P T H r P、骨塩量定量 ( D E X A 法など)も含む) ----- B ( )

#### オ 膵ラ島機能 ----- A c ( )

#### カ 副腎皮質機能 ----- B ( )

#### キ 副腎髄質機能 ----- B ( )

#### ク レニン・アンジオテンシン系機能 ----- B ( )

### ( 2 ) 内分泌形態学的検査法 ----- B ( )

下垂体 C T、下垂体 M R I、甲状腺エコー、甲状腺シンチグラフィ、副腎 C T など

### 3 治療

- (1) 補充療法 ----- A c ( )
- (2) ホルモン分泌過剰症の治療
- ア 外科的治療 ----- B ( )
- イ 内科的治療 ----- A b ( )
- ウ 放射線治療 ----- B ( )
- (3) クリーゼの治療 ----- A c ( )

### 4 各論

- (1) 視床下部・下垂体疾患
- ア 下垂体前葉機能低下症（視床下部性も含む）
- (ア) 汎下垂体機能低下症および多種下垂体ホルモン分泌不全症（下垂体および近傍の腫瘍、Sheehan症候群、特発性など） ----- B ( )
- (イ) GH分泌不全症低身長症（下垂体性小人症） ----- B ( )  
（低身長症の種類と鑑別を含む）
- (ウ) 下垂体前葉ホルモン単独欠損症 ----- B ( )
- イ 下垂体前葉機能亢進症
- (ア) 先端巨大症、下垂体性巨人症 ----- B ( )
- (イ) Cushing病 ----- B ( )
- ウ 下垂体後葉疾患
- (ア) 尿崩症（心因性多飲症、腎性尿崩症を含む） ----- B ( )
- (イ) S I A D H ----- B ( )
- (2) 甲状腺疾患
- ア 甲状腺機能亢進症および甲状腺中毒症を呈する疾患
- (ア) Basedow ( Graves ) 病 ----- A c ( )
- (イ) 破壊性甲状腺炎 ----- A c ( )
- イ 甲状腺機能低下症
- (ア) 慢性甲状腺炎（橋本病） ----- A c ( )
- (イ) 外科手術後、放射性ヨード療法後の甲状腺機能低下症 ----- B ( )
- (ウ) 下垂体性および中枢性甲状腺機能低下症 ----- B ( )
- ウ 甲状腺腫（悪性腫瘍を除く）
- (ア) びまん性 ----- A b ( )
- (イ) 結節性 ----- A c ( )
- エ 甲状腺悪性腫瘍 ----- B ( )
- オ 低T3症候群 ----- B ( )
- カ 甲状腺炎
- (ア) 慢性（橋本病） ----- A b ( )
- (イ) 亜急性 ----- A c ( )

- (ウ) 無痛性 ..... B ( )
- (3) 副甲状腺疾患
- ア 副甲状腺機能亢進症
- (ア) 原発性副甲状腺機能亢進症 ..... B ( )  
 (悪性腫瘍による高カルシウム血症を含む)
- (イ) 続発性副甲状腺機能亢進症 ..... B ( )
- イ 副甲状腺機能低下症 ..... B ( )
- (4) 副腎皮質
- ア 副腎皮質機能亢進症
- (ア) Cushing症候群 ..... A c ( )
- (イ) 原発性アルドステロン症 ..... B ( )  
 特発性アルドステロン症 ..... B ( )
- イ 副腎機能低下症
- (ア) 急性副腎不全 (医源性副腎不全を含む) ..... A c ( )
- (イ) 慢性副腎不全、Addison病、Schmidt症候群 ..... B ( )
- (ウ) 下垂体性副腎機能低下症 ..... B ( )
- (5) 副腎髄質ならびに交感神経系
- ア 褐色細胞腫 ..... A c ( )
- (6) その他
- ア 多毛症 ..... B ( )
- イ 女性化乳房 ..... B ( )
- ウ 神経性食欲不振症 ..... A c ( )
- エ empty sella ..... B ( )
- オ Bartter症候群 ..... B ( )
- カ Pseudo-Bartter症候群 ..... B ( )
- キ 特発性浮腫 ..... A c ( )
- ク 膵ラ島腫瘍insulinoma ..... B ( )
- ケ 異所性ホルモン産生腫瘍、カルチノイド ..... B ( )
- コ 骨粗しょう症 ..... A c ( )
- サ 骨軟化症 ..... B ( )
- シ 加齢に伴う内分泌異常 (いわゆる更年期障害を含む) ..... B ( )

# 代 謝

## 1 機能、病態生理

- ( 1 ) 栄養素とエネルギー ( 熱量 ) ----- A ( )  
その必要量
- ( 2 ) 糖代謝 ----- A ( )  
ア 血糖の調節機能 ----- A ( )  
イ インスリンおよびグルカゴンの分泌、作用機序 ----- B ( )
- ( 3 ) 蛋白代謝 ----- B ( )  
ア 血清蛋白の組成および機能 ----- B ( )  
イ アミノ酸の代謝 ----- B ( )
- ( 4 ) 脂質代謝 ----- B ( )  
血清脂質およびポ蛋白の組成、機能および代謝 ----- B ( )
- ( 5 ) プリン体代謝 ----- B ( )
- ( 6 ) 水・電解質代謝 ----- A ( )  
血清電解質の組成および調節 ( Na、K、Cl、Ca、Mg、  
pH ) ----- B ( )
- ( 7 ) ビタミン、その化学構造、生理作用、存在、必要量 ----- A ( )
- ( 8 ) 代謝調節、酵素、ビタミン、ホルモンの役割 ----- B ( )

## 2 診断、検査

- ( 1 ) 糖代謝検査法
- ア 尿糖検査 ----- A a ( )  
イ 尿ケトン検査 ----- A b ( )  
ウ 血糖迅速半定量法検査 ----- A a ( )  
エ 血糖測定 ----- A a ( )  
オ 糖負荷試験 ----- A c ( )  
カ インスリン分泌機能検査 ----- B ( )  
キ インスリン抵抗性検査 insulin tolerance test ----- B ( )  
ク C-ペプチド、ヘモグロビンA1c、フルクトサミン、  
1.5 アンヒドログルシトール ----- A c ( )
- ( 2 ) 蛋白代謝検査法 ----- B ( )
- ( 3 ) 脂質代謝検査法 ----- B ( )
- ( 4 ) 眼底検査 ----- A c ( )
- ( 5 ) 尿中微量アルブミン測定 ----- A c ( )
- ( 6 ) 自律神経機能検査
- ア 起立性低血圧 ----- B ( )
- ( 7 ) 膵島抗体 ( ICA、抗GAD抗体検査 ) ----- B ( )

### 3 治療

- (1) 薬物療法 ----- A b ( )  
ア 経口血糖降下薬  
イ インスリン
- (2) 食事療法 ----- A b ( )
- (3) 栄養療法 ----- A c ( )  
ア 経静脈高カロリー栄養法 ( I V H )  
イ 経腸栄養法 ( 成分栄養 : E D、低残渣食 : L R D )
- (4) 運動療法 ----- A b ( )

### 4 各論

- (1) 糖代謝異常
- ア 糖尿病 ( I D D M、N I D D M、O t h e r t y p e s ----- A b ( )  
    (ア) 糖尿病性網膜症 ----- A c ( )  
    (イ) 糖尿病性腎症 ----- A c ( )  
    (ウ) 糖尿病性ニューロパチー ----- A c ( )  
    (エ) 糖尿病性壊疽 ----- A c ( )  
        腎性糖尿 ----- B ( )  
イ 低血糖症 ----- A a ( )
- (2) 蛋白代謝異常
- ア 低蛋白血症 ----- A b ( )  
イ 高蛋白血症 ----- B ( )  
ウ フェニルケトン尿症 ----- B ( )  
エ F a n c o n i 症候群 ----- B ( )  
オ シスチン症 ----- B ( )
- (3) 脂質代謝異常
- ア 肥満症 ----- A b ( )  
イ るいそう ----- A c ( )  
ウ 高脂血症 ( 高リポ蛋白血症 ) ----- A b ( )
- (4) 電解質代謝異常
- ア 高カルシウム血症 ----- A c ( )  
イ 低カルシウム血症 ----- B ( )  
ウ 高カリウム血症 ----- A a ( )  
エ 低カリウム血症 ----- A a ( )  
オ 高ナトリウム血症 ----- A c ( )  
カ 低ナトリウム血症 ----- A b ( )  
キ 低マグネシウム血症 ----- B ( )  
ク アシドーシス ----- A c ( )  
ケ アルカローシス ----- A c ( )

( 5 ) ビタミン欠乏および過剰症

- ア ビタミンA欠乏症および過剰症 ..... B ( )
- イ ビタミンB1欠乏症 ..... B ( )
- ウ ビタミンB2群欠乏症 ..... B ( )
- エ ペラグラ ..... B ( )
- オ ビタミンB6欠乏症 ..... B ( )
- カ ビタミンB12欠乏症 ..... B ( )
- キ ビタミンC欠乏症 ..... B ( )
- ク ビタミンD欠乏症および過剰症 ..... B ( )
- ケ ビタミンK欠乏症および過剰症 ..... B ( )

( 6 ) 微量元素の欠乏および過剰症

- ア 亜鉛 ( Z n ) 欠乏症および過剰症 ..... B ( )
- イ 鉄 ( F e ) 欠乏症および過剰症 ..... B ( )
- ウ コバルト ( C o ) 欠乏症および過剰症 ..... B ( )
- エ マンガン ( M n ) 欠乏症および過剰症 ..... B ( )

( 7 ) その他の代謝異常

- ア 高尿酸血症
  - (ア) 痛風 ..... A c ( )
- イ ヘモクロマトーシス ..... B ( )
- ウ アミロイドーシス ..... B ( )
- エ くる病・骨軟化症 ..... B ( )

# 腎 臓

## 1 形態、機能、病態生理

- ( 1 ) 腎尿路系の形態 ----- A ( )
- ( 2 ) 腎の機能 ----- A ( )
- ア 尿の生成
- イ 体液の恒常性
- ウ 腎の内分泌機能
- ( 3 ) 主要症候 ----- A ( )
- 尿の異常 ( 尿量、排尿、尿の性状 ) 蛋白尿、血尿、膿尿、  
細菌尿、浮腫、高血圧、貧血、尿毒症
- ( 4 ) 水・電解質異常と酸塩基平衡 ----- A ( )
- ア 体液の分布と組成
- イ 酸塩基平衡とその異常
- (ア) 代謝性アシドーシス
- (イ) 代謝性アルカローシス
- (ウ) 呼吸性アシドーシス
- (エ) 呼吸性アルカローシス

## 2 診断、検査

- ( 1 ) 尿検査
- ア 一般(色調、PH、比重、浸透圧、混濁) ----- A a ( )
- イ 定量検査(蛋白、糖) ----- A a ( )
- ウ 沈渣 ----- A a ( )
- エ 生化学 ( Na、K、Cl、P、クレアチニン、アルブミン、  
免疫グロブリン、トランスフェリン) ----- A b ( )
- ( 2 ) 血液生化学検査
- ア 尿素窒素 ----- A a ( )
- イ クレアチニン ----- A a ( )
- ウ 尿酸 ----- A a ( )
- エ 総蛋白およびその分画 ----- A a ( )
- オ 電解質
- Na、K、Cl、HCO<sub>3</sub> ----- A a ( )
- Ca、P ----- A c ( )

- ( 3 ) 免疫学的検査
- ア ASO ..... A c ( )
- イ 免疫グロブリン値 ..... A b ( )
- ウ 血清補体値 ( C 3、C 4、C H 50 ) ..... A b ( )
- エ 抗核抗体 ..... A b ( )
- オ クリオグロブリン ..... A c ( )
- ( 4 ) 腎機能検査
- ア GFR ( C in、C cr ) ..... A a ( )
- イ RPF、RBF ( C PAH ) ..... B ( )
- ウ PSP 排泄試験 ..... B ( )
- エ 近位尿細管機能
- (ア) 尿 2ミクログロブリン ..... A b ( )
- (イ) 尿 NAG ..... A b ( )
- オ 遠位尿細管機能
- (ア) 尿濃縮試験 ..... A b ( )
- カ 酸塩基平衡試験
- (ア) 負荷試験 ( 塩化アンモニウム、炭酸水素ナトリウム ) ..... B ( )
- ( 5 ) 腎生検法 ..... B ( )
- ( 6 ) 腎組織診断法 ( 光顕、蛍光抗体法、電顕 ) ..... A c ( )
- ( 7 ) 画像診断
- ア 腹部単純撮影 ..... A a ( )
- イ 腎盂造影 ..... A b ( )
- ウ 超音波診断 ..... A a ( )
- エ CT ..... A b ( )
- オ 腎血管造影 ..... A c ( )
- カ レノグラム、腎シンチグラム ..... A c ( )
- ( 8 ) 腎の内分泌機能検査
- ア レニン活性 ..... A b ( )
- イ アルドステロン ..... A b ( )
- ウ ビタミン D ..... B ( )
- エ エリスロポエチン ..... B ( )

### 3 治療

- ( 1 ) 生活指導 ----- A b ( )
- ( 2 ) 食事指導 ----- A b ( )
- ( 3 ) 薬物療法
  - ア 利尿薬 ----- A a ( )
  - イ 降圧薬 ----- A a ( )
  - ウ 副腎皮質ステロイド薬 ----- A b ( )
  - エ 免疫抑制薬 ----- B ( )
  - オ 非ステロイド系抗炎症薬 ----- B ( )
  - カ 抗血小板薬 ----- A b ( )
  - キ 抗凝固薬 ----- A c ( )
- ( 4 ) 血液浄化
  - ア 血液透析法 ----- A b ( )
  - イ 腹膜透析法 ----- A c ( )
  - ウ 血液吸着法 ----- A c ( )
  - エ 血液濾過法 ----- A c ( )
  - オ 血漿交換法 ----- B ( )
- ( 5 ) 腎移植 ----- B ( )

### 4 各論

- ( 1 ) 原発性糸球体疾患
  - ア 臨床症候分類 ( WHO )
    - ( ア ) 急性糸球体腎炎 ----- A b ( )
    - ( イ ) 急速進行性糸球体腎炎 ----- A c ( )
    - ( ウ ) 持続性血尿、蛋白尿 ( 慢性糸球体腎炎潜在型 ) ----- A a ( )
    - ( エ ) 慢性糸球体腎炎 ----- A b ( )
    - ( オ ) ネフローゼ症候群 ----- A b ( )
  - イ 病理組織学的分類
    - ( ア ) 管内増殖性糸球体腎炎 ----- A c ( )
    - ( イ ) 半月体形成性糸球体腎炎 ----- A c ( )
    - ( ウ ) メサングウム増殖性糸球体腎炎  
( IgA 腎症、非 IgA 腎症 ) ----- A b ( )
    - ( エ ) 膜性増殖性糸球体腎炎 ( 、 、 型 ) ----- A c ( )
    - ( オ ) 膜性腎症 ----- A c ( )
    - ( カ ) 巣状糸球体硬化症 ----- A c ( )
    - ( キ ) 微小変形型ネフローゼ ----- A b ( )
    - ( ク ) 硬化性糸球体腎炎 ----- A c ( )

- ( 2 ) 遺伝性糸球体疾患
- ア Alport症候群 ..... B ( )
- イ 家族性血尿症候群 ( thin basement membrane diseaseを含む )  
..... B ( )
- ウ Fabry病 ..... B ( )
- ( 3 ) 全身性疾患による腎障害
- ア 糖尿病性腎症 ..... A b ( )
- イ 痛風腎 ..... B ( )
- ウ アミロイド腎 ..... A c ( )
- エ 骨髄腫腎 ..... B ( )
- オ 紫斑病性腎炎 ..... A c ( )
- カ 膠原病とその近縁疾患に伴う腎障害
- (ア) ループス腎炎 ..... A b ( )
- (イ) 結節性多発動脈炎 ..... A c ( )
- (ウ) クリオグロブリン血症 ..... B ( )
- (エ) 抗リン脂質抗体症候群 ..... B ( )
- (オ) 強皮症腎 ..... B ( )
- (カ) 混合性結合組織病 ( M C T D ) ..... B ( )
- (キ) Goodpasture症候群 ..... B ( )
- (ク) Wegener肉芽腫症 ..... B ( )
- キ DIC ( 播種性血管内血液凝固 ) と腎障害 ..... B ( )
- ク 溶血性尿毒症症候群 ..... A c ( )
- ケ 肝疾患に伴う腎障害 ..... B ( )
- コ 電解質異常に伴う腎障害 ..... B ( )
- サ 感染症に伴う腎障害 ..... B ( )
- シ 悪性腫瘍に伴う腎障害 ..... B ( )
- ( 4 ) 尿細管・間質性疾患
- ア 感染性尿細管間質性腎炎
- (ア) 急性腎盂腎炎 ..... A a ( )
- (イ) 慢性腎盂腎炎 ..... A c ( )
- イ 逆流腎症 ..... B ( )
- ウ 薬剤性尿細管間質性腎炎 ..... A c ( )
- エ 免疫異常を伴う尿細管間質性腎炎 ..... B ( )
- オ 閉塞性腎尿路疾患によるもの ..... B ( )
- カ 糸球体疾患、血管障害によるもの ..... B ( )

- ( 5 ) 尿細管機能異常
- ア 腎性糖尿 ..... A c ( )
- イ 尿細管性アシドーシス ..... B ( )
- ウ 腎性尿崩症 ..... A c ( )
- エ Fanconi症候群 ..... B ( )
- オ Bartter症候群 ( Pseudo Bartter症候群を含む ) ..... B ( )
- ( 6 ) 腎尿路感染症
- ア 急性腎盂腎炎 ..... A a ( )
- イ 慢性腎盂腎炎 ..... A c ( )
- ウ 下部尿路感染症 ( 性行為感染症、出血性膀胱炎を含む ) ..... A b ( )
- エ 腎結核 ..... B ( )
- オ 腎膿瘍 ..... B ( )
- ( 7 ) 腎の血管障害
- ア 腎血管性高血圧 ..... A c ( )
- イ 高血圧による腎障害
- ( ア ) 良性腎硬化症 ..... B ( )
- ( イ ) 悪性腎硬化症 ..... B ( )
- ウ 動脈血栓症、塞栓症 ( 腎梗塞 ) ..... B ( )
- ( 8 ) 腎の先天性異常
- ア 腎発生、形成異常症 ..... B ( )
- イ 嚢胞性腎疾患 ..... A c ( )
- ウ 重複腎盂・尿管 ..... B ( )
- エ 馬蹄腎 ..... B ( )
- ( 9 ) 妊娠と腎
- ア 正常妊娠時の腎機能 ..... B ( )
- イ 妊娠中毒症 ..... A c ( )
- ウ 腎疾患と妊娠 ..... A c ( )
- ( 10 ) 腎不全
- ア 急性腎不全 ..... A a ( )
- イ 慢性腎不全 ..... A a ( )
- ウ 長期透析患者の病態 ..... A b ( )
- エ 移植後の患者の病態 ..... B ( )
- ( 11 ) 泌尿器科的腎尿路疾患
- ア 腎尿路外傷 ..... B ( )
- イ 腎尿路腫瘍 ..... B ( )
- 腎細胞癌、腎芽細胞腫 ( Wilms腫瘍 )、  
腎良性腫瘍 ( 腎血管筋脂肪腫 )
- ウ 腎尿路結石 ..... A a ( )

# 呼 吸 器

## 1 形態、機能、病態生理

- ( 1 ) 呼吸器の構造 ----- A ( )
- ( 2 ) 呼吸生理 ----- A ( )
- ( 3 ) 呼吸不全の種類と発生機序 ----- A ( )
- ( 4 ) 主要症候 ----- A ( )  
咳、痰、咯血、呼吸困難、喘鳴、胸痛、嘔声、チアノーゼ、ばち指

## 2 診断、検査

- ( 1 ) 胸部理学的所見 ----- A a ( )  
視診、触診、打診、聴診
- ( 2 ) 胸部 X 線診断法
  - ア 単純撮影 ----- A a ( )
  - イ 肺 C T ----- A a ( )
- ( 3 ) 核医学的診断法
  - ア 肺血流シンチグラム ----- B ( )
  - イ 肺換気シンチグラム ----- B ( )
  - ウ Gaシンチグラム ----- B ( )
  - エ 骨シンチグラム ----- B ( )
- ( 4 ) 気管支内視鏡検査法 ----- A c ( )
- ( 5 ) 血液検査
  - ア 腫瘍マーカー ----- A b ( )
  - イ I g E ( R I S T ) ( R A S T ) ----- B ( )
- ( 6 ) 痰採取法と検査法
  - ア 細胞診 ----- B ( )
  - イ 細菌学的検査 ----- A a ( )
  - ウ P C R 法 ----- B ( )
- ( 7 ) 胸腔穿刺法と検査法 ----- A c ( )
- ( 8 ) 生検法
  - ア 経気管支肺生検 ----- B ( )
  - イ 胸膜生検 ----- B ( )
- ( 9 ) 肺機能検査法
  - ア 換気力学検査法
    - (ア) スパイログラフィー ----- A a ( )
    - (イ) 肺器量分画 ----- A a ( )
  - イ 動脈血ガス分析 ----- A a ( )
- ( 10 ) 皮膚反応検査 ----- A b ( )

### 3 治療

- ( 1 ) 気管支拡張薬 ----- A a ( )
- ( 2 ) 鎮咳、去痰薬 ----- A a ( )
- ( 3 ) 副腎皮質ステロイド薬 ----- A a ( )
- ( 4 ) 抗菌薬 ----- A a ( )
- ( 5 ) 抗癌薬 ----- B ( )
- ( 6 ) 吸入療法 ----- A a ( )
- ( 7 ) 酸素療法 ----- A a ( )
- ( 8 ) 人工呼吸 ----- A a ( )
- ( 9 ) 気管切開 ----- B ( )
- ( 10 ) 胸腔ドレナージ ----- A a ( )
- ( 11 ) 減感作療法 ----- B ( )
- ( 12 ) 体位ドレナージ ----- A a ( )
- ( 13 ) I R C ( 呼吸不全集中療法 ) ----- A c ( )
- ( 14 ) リハビリテーション ----- A c ( )
- ( 15 ) 在宅呼吸ケア ( 在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法を含む ) ----- A c ( )

### 4 各論

#### ( 1 ) 肺気管支疾患

##### ア 肺気管支の感染性及び炎症性疾患

- ( ア ) 急性上気道感染症 ( かぜ症候群 ) ----- A a ( )
  - 急性気管支炎 ----- A a ( )
- ( イ ) ウイルス肺炎 ----- B ( )
- ( ウ ) マイコプラズマ肺炎 ----- A a ( )
- ( エ ) クラミジア肺炎 ----- B ( )
- ( オ ) レジオネラ肺炎 ----- B ( )
- ( カ ) リケッチア肺炎 ----- B ( )
- ( キ ) 細菌性肺炎 ----- A a ( )
- ( ク ) 嚥下性肺炎 ----- A a ( )
- ( ケ ) リポイド肺炎 ----- B ( )
- ( コ ) 肺化膿症 ----- A b ( )
- ( サ ) 肺真菌症 ----- A b ( )
- ( シ ) 肺結核症 ----- A b ( )
- ( ス ) 非定型抗酸菌症 ----- A b ( )
- ( セ ) 肺寄生虫症 ----- B ( )
- ( ソ ) カリニ肺炎 ----- B ( )

- イ 閉塞性肺疾患
- (ア)慢性気管支炎 ----- A a ( )
  - (イ)肺気腫 ----- A a ( )
  - (ウ)気管支喘息 ----- A a ( )
  - (エ)びまん性汎細気管支炎 ----- A b ( )
- ウ 特発性間質性肺炎(肺線維症) ----- A b ( )
- エ 肺胞気管支系の異常拡張
- (ア)気管支拡張症 ----- A b ( )
  - (イ)肺嚢胞症 ----- A b ( )
- オ 無気肺
- (ア)無気肺 ----- A b ( )
  - (イ)中葉症候群 ----- A b ( )
- カ じん肺症
- (ア)珪肺症 ----- A b ( )
  - (イ)石綿肺 ----- B ( )
  - (ウ)有機じん肺 ----- B ( )
  - (エ)その他のじん肺 ----- B ( )
- キ 肺循環障害
- (ア)肺うっ血、肺水腫 ----- A a ( )
  - (イ)肺塞栓、肺梗塞症 ----- A c ( )
  - (ウ)原発性肺高血圧症 ----- B ( )
  - (エ)肺動静脈瘻 ----- B ( )
  - (オ)肺性心 ----- A a ( )
  - (カ)成人呼吸促迫症候群 ----- B ( )
- ク アレルギー性疾患
- (ア)気管支喘息 ----- A a ( )
  - (イ)pulmonary infiltration with eosinophilia ( P I E )  
症候群及び好酸球性肺炎 ----- B ( )
  - (ウ)過敏性肺(臓)炎 ----- B ( )
- ケ サルコイドーシス ----- B ( )
- コ アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 ----- B ( )
- サ 化学物質、放射線による肺障害
- (ア)化学薬品、重金属などによる肺障害(薬剤性肺炎) ---- B ( )
  - (イ)酸素中毒 ----- A a ( )
  - (ウ)有毒ガスによる呼吸器障害 ----- B ( )  
(CO、NO<sub>2</sub>、青酸、CO<sub>2</sub>など)
  - (エ)パラコート肺 ----- B ( )
  - (オ)放射線肺炎 ----- B ( )
  - (カ)フグ中毒 ----- B ( )

- シ 膠原病及び類縁疾患に伴う肺病変
- (ア) 慢性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、進行性全身性硬化症、皮膚筋炎、多発性筋炎、結節性動脈周囲炎、Sjogren症候群 ----- B ( )
  - (イ) Wegener肉芽腫症 ----- B ( )
  - (ウ) Goodpasture症候群 ----- B ( )
- ス 呼吸中枢の疾患
- (ア) 肺泡低換気症候群 ----- A b ( )
  - (イ) sleep apnea syndrome (睡眠時無呼吸症候群) ----- A b ( )
  - (ウ) 過換気症候群 ----- A a ( )
- セ 呼吸器新生物
- (ア) 良性腫瘍 ----- A b ( )
  - (イ) 悪性腫瘍 ----- A b ( )
- ソ その他 (比較的まれな肺疾患及び病態)
- (ア) 気管支結石症 ----- B ( )
  - (イ) 肺泡微石症 ----- B ( )
  - (ウ) 肺泡蛋白症 ----- B ( )
  - (エ) 肺嚢胞性繊維症 ----- B ( )
  - (オ) histiocytosis X ----- B ( )
  - (カ) 肺分画症 ----- B ( )
  - (キ) アミロイドーシス ----- B ( )
  - (ク) 上大動脈症候群 ----- B ( )
- (2) 胸膜疾患
- ア 特発性気胸 ----- A a ( )
  - イ 胸膜炎 (胸水を含む) ----- A b ( )
  - ウ 膿胸 ----- B ( )
  - エ 胸膜腫瘍 ----- B ( )
- (3) 横隔膜疾患
- ア 横隔膜麻痺 ----- B ( )
  - イ 横隔膜ヘルニア ----- A b ( )
  - ウ 横隔膜下腫瘍 ----- B ( )
- (4) 縦隔疾患
- ア 縦隔気腫 ----- A b ( )
  - イ 縦隔腫瘍 ----- B ( )
  - ウ 縦隔炎 ----- B ( )
- (5) 胸郭の変形 ----- A a ( )

# 血 液

## 1 形態、機能、病態生理

- ( 1 ) 造血臓器及び血球の構造と機能 ----- A ( )
- ( 2 ) 血液細胞の発生と分化 ----- B ( )
- ア 造血幹細胞
- イ 造血因子  
( エリスロポエチン、G - C S F、G M - C S F、M - C S F、  
I L - 1、I L - 3、I L - 4、I L - 5、I L - 6、I L - 11 )
- ( 3 ) 血漿蛋白 ----- A ( )
- ( 4 ) 止血機序 ----- B ( )
- ( 5 ) 主要症候 ----- A ( )  
貧血、多血、発熱、出血傾向、血栓傾向、脾腫、肝腫大、  
リンパ節腫大、黄疸、免疫不全、過粘度症候群

## 2 診断、検査

- ( 1 ) 血球算定およびヘモグロビン定量 ----- A a ( )
- ( 2 ) 血液学的指数 ----- A b ( )  
M C V、M C H、M C H C
- ( 3 ) 塗抹標本の作製と鏡検 ----- A b ( )
- ア 白血球百分率
- イ 赤血球形態
- ( 4 ) 網赤血球数 ----- A b ( )
- ( 5 ) 赤血球沈降速度 ----- A a ( )
- ( 6 ) 骨髓検査
- ア 骨髓穿刺 ----- A c ( )
- イ 骨髓像 ----- B ( )
- ウ 生検 ----- B ( )
- ( 7 ) 血球の形態学的検査
- ア 細胞化学的検査
- (ア) ペルオキシダーゼ ----- B ( )
- (イ) 好中球アルカリホスファターゼ ----- B ( )
- (ウ) エステラーゼ、鉄染色、P A S 染色など ----- B ( )
- ( 8 ) 造血必須物質測定
- ア 血清鉄、鉄結合能、血清フェリチン ----- A b ( )
- イ ビタミン B 12、葉酸 ----- A c ( )
- ウ エリスロポエチン ----- B ( )

- ( 9 ) 溶血に関する検査
- ア クームス試験 ----- B ( )
- イ 血清酵素、ビリルビン、ハプトグロビン ----- B ( )
- ウ 赤血球浸透圧抵抗 ----- B ( )
- エ Ham試験、砂糖水試験 ----- B ( )
- ( 10 ) 血液学における放射線学的診断 ----- B ( )
- ア Ferrokinetics
- イ 赤血球寿命
- ウ 赤血球量
- エ 臓器のスキャン、オートラジオグラフィー、骨髄、骨、リンパ節  
CT, MRI、Gaシンチグラフィー
- ( 11 ) 血球の表面形質検査
- ア リンパ球 ----- B ( )  
( CD 3、CD 4、CD 5、CD 7、CD 8、CD 10、CD 19、  
CD 20、CD 25、Sm Ig、HLA - DR など )
- イ 骨髄系細胞 ----- B ( )  
( CD 13、CD 14、CD 33、CD 34 など )
- ウ 巨核球系細胞 ----- B ( )  
( CD 41、CD 42 など )
- ( 12 ) 免疫血液学的検査
- ア 抗核抗体、LE細胞 ----- A c ( )
- イ 抗血小板抗体、PAIgG ----- B ( )
- ウ ツベルクリン反応、DNCB、皮膚反応 ----- B ( )
- ( 13 ) 血漿蛋白検査
- ア 電気泳動法 ----- A c ( )
- イ 免疫電気泳動法 ----- B ( )
- ウ 定量 ----- B ( )
- エ 血清(漿)粘度測定 ----- B ( )
- ( 14 ) 出血凝固系検査
- ア 出血時間 ----- A a ( )
- イ 毛細血管抵抗試験 ----- B ( )
- ウ 血小板機能検査 ----- B ( )  
血小板凝集能、粘着能
- エ 凝固能の検査
- (ア)全血凝固時間 ----- A a ( )
- (イ)活性化部分トロンボプラスチン時間 ----- B ( )
- (ウ)プロトロンビン時間 ----- B ( )

オ 各凝固因子定量

- (ア) フィブリノーゲン ----- B ( )  
(イ) : C、 : A g、vW F ----- B ( )  
(ウ) 、 、 、 、 、 ----- B ( )

カ 線溶活性の測定

- (ア) FDP の定量 ----- A b ( )  
(イ) D - ダイマー、TAT ----- B ( )

キ 循環抗凝固物質の測定 ----- B ( )

ク 凝固阻止因子の測定 ----- B ( )

AT ( antithrombin )  
2PI ( 2 plasmin inhibitor )

(15) 血液型

- ア ABO 型 ----- A a ( )  
イ Rh 型 ----- A b ( )  
ウ HLA ----- B ( )

(16) 染色体検査 ----- B ( )

- ア t ( 9 ; 2 2 ) ( q 3 4 ; q 1 1 )  
イ t ( 8 ; 2 1 ) ( q 2 2 ; q 2 2 )  
ウ t ( 1 5 ; 1 7 ) ( q 2 2 ; q 1 1 )  
エ t ( 1 4 ; 1 8 ) ( q 3 2 ; q 2 1 )  
オ t ( 8 ; 1 4 ) ( q 2 4 ; q 3 2 )

(17) 分子生物学的検査 ----- B ( )

bcr、TcR ( T細胞受容体遺伝子 )、JH ( 免疫グロブリン遺伝子 )

3 治療

(1) 血液疾患の食事療法 ----- A b ( )

鉄欠乏性貧血、葉酸欠乏、ビタミンB12欠乏

(2) 血液疾患の薬物療法

- ア 鉄剤、葉酸、ビタミンB12 ----- A c ( )  
イ アンドロゲン ----- B ( )  
ウ 免疫抑制療法 ----- B ( )

副腎皮質ステロイド薬、シクロホスファミド、シクロスポリンA、  
抗リンパ球抗体、抗T細胞抗体

エ 抗腫瘍薬 ----- B ( )

(ア) アルキル化薬

シクロホスファミド、メルファラン、ブスルファン、MCNU、  
ハイドロキシウレア

(イ) 代謝性拮抗物質

AraC、エノシビタン、6-MP、メトトレキサート

(ウ) 抗生物質

ダウノルピシン、アドリアマイシン、ミトザントロン、アクリルピシン、イダルピシン

(エ) ホルモン薬

副腎皮質ステロイド薬

(オ) 酵素薬

L - アスパラギナーゼ

(カ) アルカロイド剤

ビンクリスチン、ビンブラスチン、ビンデシン

(キ) トポイソメラーゼ阻害薬

エトポシド

オ サイトカイン ..... B ( )  
G - C S F、エリスロポエチン

(2) 輸血

ア 成分輸血 ..... A b ( )

イ 血液製剤 ..... A b ( )

(3) 特殊療法

ア 摘脾 ..... B ( )

イ 骨髄移植 ..... B ( )

ウ 血漿交換 ..... B ( )

エ 放射線療法 ..... B ( )

オ 髄注 ..... B ( )

(4) 無菌管理 ..... A c ( )

4 各論

(1) 赤血球系

ア 出血性貧血 ..... A b ( )

イ 鉄欠乏性貧血 ..... A b ( )

ウ 巨赤芽球性貧血 ..... B ( )

エ 溶血性貧血

(ア) 先天性

a 遺伝性球状赤血球症 ..... B ( )

(イ) 後天性

a 自己免疫性溶血性貧血 (温式、冷式) ..... B ( )

b 発作性夜間血色素尿症 ..... B ( )

オ 再生不良性貧血 ..... A c ( )

赤芽球癆 ..... B ( )

カ 特発性門脈圧亢進症 (B anti症候群) ..... B ( )

- キ 全身性疾患に併発する貧血 ..... B ( )  
腎不全、感染症、膠原病、その他
- ( 2 ) 白血球系
- ア 類白血病反応 ..... B ( )
- イ 顆粒球減少症 ..... A c ( )
- ウ 急性白血病 ( F A B 分類 ) ..... B ( )
- (ア) 骨髄性白血病 ( M 0、M 1、M 2 )
- (イ) 前骨髄球性白血病 ( M 3 )
- (ウ) 骨髄単球性白血病 ( M 4 )
- (エ) 単球性白血病 ( M 5 )
- (オ) 赤白血病 ( M 6 )
- (カ) 巨核芽球性白血病 ( M 7 )
- (キ) リンパ性白血病 ( L 1、L 2、L 3 )
- エ 慢性白血病
- (ア) 骨髄性白血病 ..... B ( )
- (イ) リンパ性白血病 ..... B ( )
- オ 骨髄増殖性疾患
- (ア) 多血症 ..... B ( )
- (イ) 本態性血小板血症 ..... B ( )
- (ウ) 骨髄線維症 ..... B ( )
- カ 骨髄異形成症候群  
( Myelodysplastic syndrome ) ..... B ( )
- キ 悪性リンパ腫
- (ア) Hodgkin病 ..... B ( )
- (イ) 非Hodgkinリンパ腫 ..... B ( )
- (ウ) 成人T細胞性白血病 ( A T L ) .....
- ク 伝染性単核球症 ..... B ( )
- ( 3 ) 蛋白異常症
- ア 多発性骨髄腫 ..... A c ( )
- イ マクログロブリン血症 ..... B ( )
- ウ 原発性アミロイドーシス ..... B ( )
- エ 良性単クローン性免疫グロブリン血症 ..... B ( )
- ( 4 ) 免疫不全症
- ア 先天性免疫不全症 ..... B ( )
- イ 後天性免疫不全症 H I V 感染症 ( A I D S ) ..... B ( )
- ( 5 ) 出血性疾患
- ア D I C ( 播種性血管内血液凝固 ) ..... A c ( )
- イ 血管障害による出血傾向 ..... B ( )

ウ 血小板減少性紫斑病

(ア)特発性血小板減少性紫斑病 ( I T P ) ----- A c ( )

(イ)症候性血小板減少性紫斑病 ----- B ( )

エ 血小板機能異常による出血傾向

オ von W illebrand病 ----- B ( )

カ 血小板無力症など ----- B ( )

キ 血友病 ----- B ( )

ク ビタミンK欠乏症 ----- B ( )

ケ 血栓性血小板減少性紫斑病 ( T T P ----- B ( )

コ 全身性疾患に併発する出血傾向 ----- B ( )

# 神 経

## 1 形態、機能、病態生理

- ( 1 ) 神経系の構造と機能 ----- A ( )  
ア 大脳、小脳、脳幹、脊髄、末梢神経、筋  
イ 運動、感覚、自律神経、高次神経機能
- ( 2 ) 主要症候 ----- A ( )  
頭痛、めまい、失神、歩行障害、運動麻痺、筋萎縮、  
不随意運動、けいれん、感覚障害、神経痛、言語障害、  
嚥下障害、視力障害、複視、聴力障害、自律神経障害、  
意識障害、知能障害

## 2 診断、検査

- ( 1 ) 神経学的検査
- ア 主として大脳機能の診察 ----- A b ( )  
意識障害、精神症状、失語、失行、失認、健忘、痴呆
- イ 頭頸部並びに脳神経領域の診察 ----- A c ( )  
髄膜刺激症状、頭蓋内圧亢進症状  
脳神経症状（眼底所見を含む）
- ウ 上下肢並びに躯幹の診察 ----- A c ( )  
痙性麻痺、弛緩性麻痺、筋萎縮、錐体外路徴候、運動失調、  
感覚障害、自律神経障害
- ( 2 ) 特殊検査
- ア 画像診断
- (ア) X線検査
- a 頭部、脊椎単純X線 ----- A b ( )  
b 頭部CT ----- A a ( )  
c 脊椎CT ----- B ( )  
d 脳血管撮影 ----- B ( )
- (イ) その他
- a MRI、MR - angiography ----- B ( )  
b SPECT ----- B ( )
- イ 髄液検査 ----- A c ( )
- ウ 脳波 ----- B ( )
- エ 生検
- (ア) 筋生検 ----- B ( )  
(イ) 神経生検 ----- B ( )
- オ テンシロンテスト ----- B ( )

### 3 治療

#### (1) 神経疾患の薬物療法

- ア 脳循環・代謝・機能改善薬 ----- A c ( )
- イ 抗血小板薬、抗凝固薬、線溶療法 ----- A c ( )
- ウ 頭蓋内圧降下薬 ----- A c ( )
- エ 抗パーキンソン病薬 ----- B ( )
- オ 振戦、ジスキネジー治療薬 ----- B ( )
- カ 抗てんかん薬 ----- A c ( )
- キ 片頭痛治療薬、鎮痛薬、筋弛緩薬 ----- A c ( )
- ク 抗不安薬、向神経薬 ----- B ( )
- ケ 自律神経用薬、抗コリンエステラーゼ薬 ----- B ( )
- コ 副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制薬 ----- B ( )
- サ 血漿交換、免疫吸着法 ----- B ( )
- シ 抗菌薬、抗ウイルス薬 ----- A c ( )

#### (2) 救急処置

- ア 脳卒中の処置 ----- A b ( )
- イ 意識障害、けいれんなどの処置 ----- A a ( )
- ウ 呼吸障害の処置 ----- A a ( )

#### (3) リハビリテーション

- ア 概念 ----- A c ( )
- イ 理学療法、作業療法、言語療法 ----- B ( )

### 4 各論

#### (1) 脳・脊髄血管障害

- ア 脳出血 ----- A a ( )
- イ くも膜下出血(脳動脈瘤、脳動静脈奇形) ----- A c ( )
- ウ 脳梗塞(脳血栓、脳塞栓) ----- A a ( )
- エ 一過性脳虚血発作 ----- A b ( )
- オ 高血圧性脳症 ----- A c ( )
- カ 硬膜外及び硬膜下血腫 ----- A c ( )
- キ 脳静脈洞及び脳静脈血栓 ----- B ( )

#### (2) 腫瘍性疾患

- ア 脳腫瘍 ----- A c ( )
- イ 脊髄腫瘍 ----- B ( )
- ウ 神経線維腫症 ----- B ( )

#### (3) 感染性疾患

- ア 髄膜炎 ----- A c ( )
- イ 脳炎 ----- B ( )
- ウ 脳膿瘍 ----- B ( )

- 工 神経梅毒 ----- B ( )
- ( 4 ) 末梢神経疾患
- ア 多発神経炎、多発ニューロパチー ----- B ( )  
( Guillain- Barre症候群、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、  
Charcot- Marie- Toothを含む )
- イ 多発性単神経炎、多発性単ニューロパチー ----- B ( )
- ウ 顔面神経麻痺 ----- B ( )
- エ 手根管症候群 ----- B ( )
- オ 神経痛 ----- B ( )
- ( 5 ) 筋疾患
- ア 進行性筋ジストロフィー ----- B ( )
- イ 筋緊張性ジストロフィー ----- B ( )
- ウ 多発性筋炎 ----- B ( )
- エ 重症筋無力症 ----- B ( )
- オ 周期性四肢麻痺 ----- A c ( )
- ( 6 ) 脱髄疾患
- ア 多発性硬化症 ----- B ( )
- ( 7 ) 変性及び遺伝性疾患
- ア Parkinson病、Parkinson症候群 ----- A c ( )
- イ 脊髄小脳変性症 ----- B ( )
- ウ 筋萎縮性側索硬化症 ----- B ( )
- エ Alzheimer病、Pick病 ----- B ( )
- ( 8 ) 代謝性及び中毒性疾患
- ア 肝レンズ核変性症 ( Wilson 病 ) ----- B ( )
- イ ビタミンB群欠乏症 ----- B ( )
- ウ 農薬中毒 ----- A c ( )
- エ CO中毒 ----- B ( )
- オ アルコール中毒 ----- A c ( )
- ( 9 ) 機能性疾患
- ア てんかん ----- A c ( )
- イ 片頭痛、緊張性頭痛、群発性頭痛 ----- A b ( )
- ウ ミエール症候群、良性発作性頭位性眩暈症 ----- A c ( )
- ( 10 ) 内科疾患に伴う神経・筋症状
- ア 甲状腺機能異常による神経・筋症状 ----- B ( )
- イ 副甲状腺機能異常による神経・筋症状
- ウ 膠原病に伴う神経・筋症状 ----- B ( )
- エ paraneoplastic syndrome ----- B ( )
- オ 糖尿病に伴う神経症状 ----- A c ( )
- カ 尿毒症に伴う神経・筋症状 ----- B ( )

- キ 肝性脳症 ..... A c ( )
- ク その他 ..... B ( )
- (11) 形成異常及び圧迫性神経疾患
- ア 脊髄病変によるミエロパチー
- (ア) 頸部脊椎症 ..... B ( )
- (イ) 頸椎後縦靱帯骨化症 ..... B ( )
- イ 正常圧水頭症 ..... B ( )
- (12) 自律神経疾患 ..... B ( )
- 起立性低血圧症 ( S hy- D rager症候群を含む )
- (13) 神経症と心身症 ..... A c ( )
- (14) 睡眠障害
- ア 睡眠時無呼吸症候群 ..... B ( )
- イ ナルコレプシー ..... B ( )
- ウ 周期性四肢運動 ..... B ( )
- エ R E M睡眠行動障害 ..... B ( )

# ア レ ル ギ ー

## 1 形態、機能、病態生理

- ( 1 ) 抗原 ( 概念、種類 ) ..... A ( )
- ( 2 ) 免疫グロブリン ..... A ( )  
( クラス、サブクラス、特に I g E )
- ( 3 ) 細胞、リンパ球、好塩基球、肥満細胞、好酸球 ..... A ( )
- ( 4 ) 補体 ..... B ( )
- ( 5 ) アレルギー-反応の分類、発症機序、病態 ..... B ( )
- ( 6 ) アレルギーに關与する化学伝達物質 ..... B ( )  
( ヒスタミン、P A F、E C F、N C F、アラキドン酸カスケード、  
ニコチン B 4、ニコチン C 4 / D 4 / E 4 )  
サイトカイン ( インターロイジン )、接着分子
- ( 7 ) 主要症候 ..... A ( )  
ショック症状、呼吸困難、チアノーゼ、気道浮腫、喘息、  
起坐呼吸、結膜充血、鼻閉、蕁麻疹、血管神経性浮腫、  
湿疹、リンパ節腫脹、頭痛、発熱

## 2 診断、検査

- ( 1 ) 血液検査 ( 白血球分画 ) ..... A a ( )
- ( 2 ) 皮膚反応 ( 搔皮、皮内、貼布 ) ..... B ( )
- ( 3 ) I g E の測定  
R A S T ( radioallergosorbent test ) ..... B ( )  
R I S T ( radioimmunosorbent test ) ..... B ( )
- ( 4 ) リンパ球芽球化 ( P H A、抗原 ) 試験 ..... B ( )

## 3 治療

- ( 1 ) 特異的療法 ( アレルゲン除去など ) ..... B ( )
- ( 2 ) 減感作療法 ..... B ( )
- ( 3 ) 非特異的療法 ( ヒスタミン拮抗薬など ) ..... B ( )
- ( 4 ) 薬物療法  
ア 抗ヒスタミン薬 ..... A a ( )  
イ 刺激薬 ..... A a ( )  
ウ キサンチン系薬剤 ..... A a ( )  
エ 抗アレルギー-薬 ( D S C G、T r a n i l a s t など ) ..... A b ( )  
オ 副腎皮質ステロイド薬 ..... A b ( )  
カ 抗コリン薬 ..... A c ( )  
キ 吸入療法 ..... A a ( )

- ク テオフィリン血中濃度モニタリング ----- A a ( )
- ( 5 ) その他治療法
  - ア レスプレーター ----- A a ( )
  - イ 酸素療法 ----- A a ( )
  - ウ 生活指導 ----- B ( )
  - エ ピーク・フロー・モニタリング ----- B ( )

4 各論

- ( 1 ) アナフィラキシー ----- A a ( )
- ( 2 ) 皮膚アレルギー
  - ア 蕁麻疹 ----- A a ( )
  - イ アトピー性皮膚炎 ----- B ( )
  - ウ 接触性皮膚炎 ----- B ( )
- ( 3 ) 呼吸器アレルギー
  - ア 鼻アレルギー（花粉症を含む） ----- A b ( )
  - イ 気管支喘息 ----- A a ( )
  - ウ 過敏性肺（臓）炎 ----- B ( )
  - エ P I E 症候群 ----- B ( )
  - オ アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 ----- B ( )
- ( 4 ) 眼アレルギー ----- B ( )
- ( 5 ) 食物アレルギー ----- B ( )
- ( 6 ) 薬物アレルギー ----- A b ( )

# 自己免疫性疾患

## 1 機能、病態生理

- ( 1 ) 免疫系の構成因子 ----- B ( )
- ア 血球  
T細胞 ( CD4、CD8陽性細胞 )、B細胞、NK細胞、  
単球、好中球、好酸球、好塩基球
- イ サイトカイン  
IL-1、IL-2、IFNなど
- ウ 接着分子  
ICAM、VCAMなど
- エ 組織適合抗原とT細胞レセプター
- オ 免疫グロブリン
- ( 2 ) 自己免疫 ----- B ( )
- 自己抗体の産生機序
- ( 3 ) 主要徴候 ----- A ( )
- 皮疹、脱毛、Raynaud症状、潰瘍 ( 口内、鼻孔、陰部、  
下腿など ) 発熱、口内乾燥、関節炎、脱力、筋肉痛、  
運動痛、尿検査所見、血液検査所見
- ( 4 ) 主要病変 ----- B ( )
- ア 膠原病に伴う中枢性神経病変  
( CNSループス、無菌性髄膜炎など )
- イ 膠原病に伴う肺病変  
( 胸膜炎、肺胞出血、間質性肺炎、肺高血圧症など )
- ウ 膠原病に伴う心病変  
( 心内膜炎、心筋炎、心外膜炎など )
- エ 膠原病に伴う消化管病変  
( 蛋白漏出性胃腸症など )
- オ 膠原病に伴う腎病変  
( ループス腎炎、強皮症腎、間質性腎炎など )
- カ 膠原病に伴うその他の病変  
( 自己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬変、間質性膀胱炎など )
- キ 日和見感染症

## 2 診断、検査

- ( 1 ) DNCB皮膚反応、その他の遅延型反応 ----- B ( )
- ( 2 ) リウマトイド因子 ----- A c ( )

- ( 3 ) 自己抗体
- ア 蛍光抗核抗体 ( F A N A ) ----- A c ( )
- イ L E 細胞 ----- A c ( )
- ウ 抗 D N A 抗体 ----- A c ( )
- 抗一本鎖 D N A 抗体
- 抗二本鎖 D N A 抗体
- エ その他の自己抗体 ----- B ( )
- 抗 U 1 - R N P 抗体、抗 S m 抗体、抗 S S - A 抗体、抗 S S - B 抗体、  
抗リン脂質抗体、抗好中球細胞質抗体、抗甲状腺抗体
- ( 4 ) 免疫複合体 ----- B ( )
- ( 5 ) 細胞性免疫能検査 ----- B ( )
- ( 6 ) クームス試験 ----- B ( )
- ( 7 ) 骨、関節、心、肺 ( 線維症など ) の画像診断 ----- B ( )
- 単純 X 線、血管造影、C T、M R I
- ( 8 ) S c h i r m e r 試験 ----- B ( )
- ( 9 ) 障害臓器生検
- ア 腎生検 ----- B ( )
- イ 筋生検 ----- B ( )
- ウ 皮膚生検 ----- B ( )
- ( 10 ) 免疫電気泳動法 ----- B ( )
- ( 11 ) 補体 ( 血液、髄液、関節液 ) ----- B ( )

### 3 治療

- ( 1 ) 薬物療法
- ア 副腎皮質ステロイド薬 ----- A c ( )
- イ 免疫抑制薬 ----- B ( )
- アザチオプリン、シクロホスファミド、メトトレキサート、  
シクロスポリン、ミゾリピン
- ウ 免疫調整薬 ( D M A R D S ) ----- B ( )
- 金塩、オーラノフィン、D - ペニシラミン、ブシラミン
- オ 非ステロイド系抗炎症薬 ----- A c ( )
- カ a p h e r e s i s ----- B ( )
- 血漿交換療法、免疫吸着療法
- ( 2 ) 理学療法、リハビリテーション ----- B ( )
- ( 3 ) 生活指導 ----- B ( )
- ( 4 ) 関節の外科的治療 ( 人工関節置換術 ) ----- B ( )

#### 4 各論

- ( 1 ) 慢性関節リウマチ ----- A c ( )  
 悪性関節リウマチ ----- B ( )
- ( 2 ) 全身性エリテマトーデス ----- A c ( )
- ( 3 ) 皮膚筋炎・多発性筋炎 ----- B ( )
- ( 4 ) 強皮症 ----- B ( )
- ( 5 ) Sjogren症候群 ----- B ( )
- ( 6 ) 血管炎
- ア 結節性多発動脈炎 ----- B ( )
- イ 大動脈炎症候群 ----- B ( )
- ウ 側頭動脈炎(巨細胞性動脈炎) ----- B ( )
- エ リウマチ性多発筋痛 ----- B ( )
- オ Wegener肉芽腫症 ----- B ( )
- カ アレルギー性肉芽腫性血管炎 ----- B ( )
- キ その他の血管炎
- (ア) 結節生紅斑 ----- B ( )
- (イ) Schonlein-Henoch紫斑病 ----- B ( )
- (ウ) 川崎病 ----- B ( )
- ( 7 ) リウマチ熱 ----- B ( )
- ( 8 ) Behcet病 ----- B ( )
- ( 9 ) オーバーラップ症候群 ----- B ( )
- ( 10 ) 混合性結合組織病( M C T D ) ----- B ( )
- ( 11 ) 薬剤起因性ループス ----- B ( )
- ( 12 ) 成人発症型 S t i l l病 ----- B ( )
- ( 13 ) 変形性関節症 ----- B ( )
- ( 14 ) 強直性脊椎炎 ----- B ( )
- ( 15 ) Reiter症候群 ----- B ( )
- ( 16 ) Buerger病(thromboangiitis obliterans) ----- B ( )
- ( 17 ) 抗リン脂質抗体症候群 ----- B ( )
- ( 18 ) 血栓性血小板減少性紫斑病 ----- B ( )
- ( 19 ) クリオグロブリン血症 ----- B ( )
- ( 20 ) A I D S ----- B ( )
- ( 21 ) アミロイドーシス ----- B ( )

# 感 染 症

## 1 病因、病態生理

- ( 1 ) 疫学 ----- A ( )
- ( 2 ) 感染様式 ----- A ( )
- ア 水平感染 ( 交差感染 )
  - イ 垂直感染
  - ウ 内因性感染
  - エ 市中感染
  - オ 院内感染
  - カ 日和見感染
  - キ 終末期感染
- ( 3 ) 感染経路 ----- A ( )
- ア 経口感染
  - イ 経気道感染
  - ウ 接触感染
  - エ 性行為感染、経血液感染、創傷感染
  - オ 媒介動物による感染
  - カ 人畜共通感染
- ( 4 ) 感染と発症 ----- B ( )
- ア colonization ( 定着 ) と発症
  - イ キャリアー
  - ウ 菌交代現象と菌交代症
- ( 5 ) 主要徴候 ----- A ( )
- ア 全身症状 ( 発熱、発疹、炎症所見 )
  - イ 感染巣を示す所見 ( 各臓器別感染症の項参照 )

## 2 診断検査

- ( 1 ) 培養検体の採取、保存法 ----- A a ( )
- (血液培養、閉鎖性膿汁、髄液)
- ( 2 ) 病原微生物の同定—検鏡
- ア グラム染色 ----- A b ( )
  - イ チールニールセン ( 抗酸 ) 染色 ----- B ( )
  - ウ 墨汁染色 ( クリプトコッカス ) ----- B ( )
  - エ 末梢血液塗抹標本からのマラリア原虫の検索 ----- B ( )
  - オ 尿沈渣生標本の検鏡 ----- A a ( )

(3) 病原微生物の同定 - 培養

- ア 一般細菌 ..... A b ( )
- イ 嫌気性菌 ..... A b ( )
- ウ 抗酸菌 ..... A b ( )
- エ 真菌 ..... A b ( )
- オ その他(レジオネラ、マイコプラズマ、レプトスピラなど) ..... B ( )

(4) DNA診断(抗酸菌、マイコプラズマ、クラミジアなど) ..... A c ( )

(5) ラテックス凝集法による迅速診断

- ア A群溶連菌 ..... B ( )
- イ クロストリディウム・デフィシルのトキシン検出) ..... B ( )
- ウ その他(肺炎球菌、インフルエンザ桿菌など) ..... B ( )

(6) 薬剤感受性検査

- ア ディスク法 ..... B ( )
- イ 最小発育阻止濃度(MIC)測定 ..... B ( )
- ウ その他( - ラクタマーゼのディスクによる検出、  
mec AによるMRSA検出など) ..... B ( )

(7) 血清学的診断

- ア 梅毒血清診断 ..... A a ( )
- イ HIV感染症 ..... A a ( )
- ウ ウィルス性肝炎 ..... A a ( )
- エ その他のウィルス感染症 ..... B ( )
- オ 真菌感染症 ..... B ( )  
(カンジダ、クリプトコッカスなど)
- カ その他の培養困難な微生物による感染症 ..... B ( )  
(レジオネラ、マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、  
レプトスピラ、原虫)

(8) 皮内反応

- ア ツベルクリン反応 ..... A b ( )

### 3 治療、予防

#### (1) 化学療法

- ア ペニシリン ..... A ( )
- イ セフェム ..... A ( )
- ウ その他のβラクタム薬(カルバペネム モノバクタム) .. A ( )
- エ アミノグリコシド ..... A ( )
- オ マクロライド、テトラサイクリン、ドキシサイクリン ..... A ( )
- カ ピリドンカルボン酸系抗菌薬 ..... A ( )
- キ その他の抗菌薬(クロラムフェニコール、ポリペプチド、  
S T合剤など) ..... B ( )
- ク 抗結核薬 ..... A ( )
- ケ 抗真菌薬 ..... B ( )
- コ 抗ウイルス薬 ..... B ( )

#### (2) 特殊病態下の化学療法

- ア 肝障害時 ..... A ( )
- イ 腎障害時 ..... A ( )
- ウ 高齢者 ..... A ( )
- エ 妊娠時 ..... A ( )

#### (3) 免疫、血清療法

- ア ガンマグロブリン補充療法 ..... B ( )
- イ ガンマグロブリンによる感染症の予防 ..... B ( )
- ウ 特異抗血清による治療 ..... A c ( )  
(破傷風、ガス壊疽、ジフテリア、ボツリヌス中毒など)

#### (4) 対症療法

- ア 一般対症療法(解熱薬、食事療法など) ..... A a ( )
- イ 敗血症性ショック、多臓器不全、DICへの対処 ..... A c ( )
- ウ 抗菌薬の副作用に対する対処 ..... B ( )

#### (5) 予防接種 ..... B ( )

#### (6) 関係法規(伝染病予防法、結核予防法、食品衛生法、 性病予防法など) ..... B ( )

#### (7) 院内感染対策 ..... A ( )

4 各論(1)

- (1) 敗血症 ..... A c ( )  
敗血症性ショック
- (2) 感染性心内膜炎 ..... B ( )
- (3) 中枢神経系感染症  
ア 髄膜炎 ..... A c ( )
- (4) 呼吸器感染症  
ア 急性上気道炎 ..... A a ( )  
イ 急性気管支炎 ..... A a ( )  
ウ 扁桃腺炎 ..... A a ( )  
エ 肺炎 ..... A a ( )  
オ 慢性呼吸器疾患の急性増悪 ..... A b ( )  
カ 膿胸、肺化膿症 ..... B ( )  
キ 胸膜炎 ..... B ( )
- (5) 腹腔内感染症  
ア 腹膜炎 ..... B ( )  
イ 腹腔内腫瘍 ..... B ( )  
骨盤腹膜炎
- (6) 肝・胆道系感染症  
ア 急性胆嚢炎、胆管炎 ..... A b ( )  
イ 肝膿瘍 ..... B ( )
- (7) 腸管感染症 ..... A b ( )  
細菌性食中毒、旅行者下痢症
- (8) 尿路感染症  
ア 単純性膀胱炎 ..... A a ( )  
イ 急性腎盂腎炎 ..... A a ( )  
ウ 尿路通過障害に伴う感染 ..... A c ( )  
カテーテル留置例の感染
- (9) 皮膚軟部組織感染症 ..... B ( )
- (10) 全身感染症(伝染性単核球症を含むウイルス性疾患、  
リケッチア症など) ..... B ( )
- (11) 特殊な条件下の感染  
ア 日和見感染症 ..... A c ( )  
(H I V感染に合併する日和見感染症を含む)  
イ 院内感染症 ..... A b ( )  
(中心静脈カテーテルの感染を含む)  
ウ 高齢者の感染症 ..... A b ( )

5 各論(2)

(1) ウイルス感染症

- ア 単純ヘルペスウイルス感染症 ..... A c ( )
- イ 水痘、帯状疱疹 ..... A c ( )
- ウ サイトメガロウイルス感染症 ..... B ( )
- エ Epstein- Barrウイルス感染症 ..... B ( )
- オ ロタウイルス感染症 ..... B ( )
- カ 風疹 ..... B ( )
- キ 流行性耳下腺炎 ..... A b ( )
- ク 麻疹 ..... A c ( )
- ケ HIV感染症 ..... A c ( )
- コ インフルエンザ ..... A a ( )
- サ 普通感冒 ..... A a ( )
- シ ウイルス性胃腸炎 ..... B ( )
- ス ウイルス性肝炎(A型、B型、C型) ..... A b ( )

(2) リケッチア感染症

- ア つつが虫病 ..... B ( )

(3) マイコプラズマ感染症

- ア マイコプラズマ肺炎 ..... A b ( )

(4) 細菌感染症

ア グラム陽性球菌感染症

(ア) 肺炎球菌感染症

- a 肺炎 ..... A b ( )

(イ) A群レンサ球菌感染症

- a 扁桃炎 ..... A b ( )

(ウ) 緑色レンサ球菌感染症

- a 感染性心内膜炎 ..... B ( )

(エ) 黄色ブドウ球菌感染症(MRSA感染症)

- a 肺炎、肺化膿症 ..... A c ( )
- b 皮膚軟部組織感染 ..... B ( )
- c 食中毒 ..... B ( )
- d その他(toxic shock syndromeなど) ..... B ( )

(オ) コアグラーゼ陰性ブドウ球菌感染症

- a 中心静脈カテーテル感染 ..... A c ( )
- b その他(感染性心内膜炎など) ..... B ( )

- (カ) 腸球菌感染症 ..... B ( )

- イ グラム陰性球菌感染症
- (ア) 髄膜炎菌感染症 ..... B ( )
- (イ) モレキセラ(ブランハメラ)感染症 ..... B ( )
- ウ グラム陰性桿菌感染症
- (ア) 細菌性赤痢、疫痢 ..... B ( )
- (イ) サルモネラ食感染症
- a 腸チフス、パラチフス ..... B ( )
- b サルモネラ食中毒 ..... B ( )
- (ウ) 大腸菌感染症
- a 食中毒、腸炎 ..... A c ( )
- b 尿路感染症 ..... A c ( )
- (エ) クレブシエラ感染症
- a 肺炎 ..... B ( )
- (オ) その他の腸内細菌による感染症 ..... B ( )
- (プロテウス、セラチアなど)
- (カ) インフルエンザ菌感染症
- a インフルエンザ桿菌感染症 ..... B ( )
- (呼吸器感染、髄膜炎)
- (キ) ビブリオ感染症
- a コレラ ..... B ( )
- b 腸炎ビブリオ食中毒 ..... A c ( )
- (ク) キャンピロバクター腸炎 ..... A c ( )
- (ケ) レジオネラ感染症 ..... B ( )
- (コ) 緑膿菌感染症
- a 好中球減少時の感染 ..... B ( )
- b 慢性呼吸器疾患の感染 ..... B ( )
- (ス) 緑膿菌以外のグラム陰性非発酵菌による感染症
- a セバシア、アシネトバクター、ザントモナス ..... B ( )
- オ 抗酸菌感染症
- (ア) 結核
- a 肺結核 ..... A c ( )
- b 結核性胸膜炎 ..... A c ( )
- c 結核性髄膜炎 ..... B ( )
- d その他(粟粒結核、腎尿路結核、腸結核、喉頭結核、カリエス) ..... B ( )
- (イ) 非定型抗酸菌症 ..... A c ( )

- カ 嫌気性菌感染症
- (ア) 無芽胞嫌気性菌感染症 ..... B ( )
- (イ) 破傷風 ..... B ( )
- (ウ) ウエルシュ菌感染症
- a 食中毒 ..... B ( )
- b ガス壊疽 ..... B ( )
- (エ) ボツリヌス食中毒 ..... B ( )
- (オ) 偽膜性大腸炎 ..... B ( )
- (6) 真菌感染症
- ア カンジダ症
- (ア) 血管カテーテル感染(眼内炎を含む) ..... B ( )
- (イ) 終末期感染 ..... B ( )
- イ クリプトコッカス症
- (ア) 髄膜炎 ..... B ( )
- ウ アスペルギルス症
- (ア) 肺アスペルギルス症 ..... B ( )
- (7) スピロヘータ感染症
- ア 梅毒 ..... B ( )
- (8) 原虫疾患
- ア 赤痢アメーバ ..... B ( )
- イ マラリア ..... B ( )
- ウ トキソプラズマ症 ..... B ( )
- エ カリニ肺炎 ..... B ( )
- オ トリコモナス症 ..... B ( )
- (9) 寄生虫疾患
- ア 線虫症
- (ア) 回虫症 ..... B ( )
- (イ) アニサキス症 ..... A c ( )
- (ウ) 蟯虫症 ..... B ( )
- (エ) フィラリア症 ..... B ( )
- イ 条虫症 ..... B ( )
- ウ 吸虫症
- (ア) 日本住血吸虫症 ..... B ( )
- (イ) 肝吸虫症 ..... B ( )
- (ウ) 横川吸虫症 ..... B ( )
- (エ) 肺吸虫症 ..... B ( )

# 中毒ならびに物理的原因による疾患

## 1 病因、病態生理

### (1) 中毒

- ア 発生要因 ..... B ( )
- イ 薬剤の副作用 (医原性疾患) ..... B ( )
- ウ 嗜癖 ..... B ( )
- エ 予防 ..... B ( )
- オ 主要症候 ..... A ( )  
消化器、肝、呼吸器、循環器、腎、造血器、神経・感覚器、  
皮膚、水電解質異常

### (2) 物理的原因による疾患

- ア 体温調節 ..... B ( )
- イ 放射線 (熱線、紫外線、放射線) の作用 ..... B ( )

## 2 治療

### (1) 中毒

#### 救急薬品および装置

- ア 胃洗浄 (適応と禁忌) ..... A a ( )
- イ 人工呼吸 ..... A b ( )
- ウ 心蘇生術 ..... A a ( )
- エ 人工透析 ..... A c ( )
- オ 対症療法 (ショック、昏睡、腎不全など) ..... A b ( )
- カ 特殊解毒薬 ..... B ( )

## 3 各論

### (1) 中毒

- ア ガス中毒
  - (ア) 一酸化炭素中毒 ..... B ( )
  - イ 農薬中毒 ..... A c ( )  
有機燐剤中毒、サリン中毒  
有機塩素剤中毒  
除草剤中毒 (パラコートなど)  
その他の農薬中毒
- ウ 有機溶剤中毒 ..... B ( )  
ベンゼン中毒  
その他の有機溶剤中毒 (n-ヘキサン、シンナーなど)

- エ 青酸中毒 ..... B ( )
- オ 薬物中毒 ..... A c ( )  
 睡眠薬、精神安定薬中毒、解熱・鎮痛薬中毒、  
 麻薬中毒、覚醒剤中毒、その他の薬物中毒
- カ アルコール中毒 ..... A c ( )
- キ 食中毒  
 (ア) 細菌性食中毒 ..... A c ( )  
 腸炎ビブリオ、サルモネラ、ブドウ球菌  
 ボツリヌス、ウエルシュ  
 (イ) 自然毒による食中毒 ..... B ( )  
 ふぐ、毒キノコなど
- ク 昆虫、毒蛇などによる中毒 ..... B ( )  
 (咬傷、刺虫症など)
- ケ 公害、環境汚染による疾病 ..... B ( )  
 (大気汚染、水質汚濁など)
- (2) 物理的原因による疾患
- ア 寒冷による疾患  
 (ア) 凍瘡および凍傷 ..... B ( )  
 (イ) 全身障害(低体温) ..... B ( )
- イ 熱による障害 ..... A c ( )  
 熱中症(日射病、熱けいれん症、熱虚脱症、うつ熱症、熱衰弱症)
- ウ 熱傷 ..... A c ( )
- エ 溺水 ..... B ( )
- オ 電撃傷 ..... B ( )

## 2 . 外科研修プログラム

### 外 科

#### 1 研修目標

一般臨床医として、外科疾患の診断、治療に必要である基本的な外科的知識、技能、態度を修得する。

#### 2 研修方法

指導医のもとに、主として入院患者の術前、術中、術後の管理に参加し、周術期の一連の診療経過をとおして研修を行う。

#### 3 研修内容（到達目標）

##### （1）一般的事項

- ア 外科医としての基本的態度 ( )
- イ チーム医療における協調性 ( )
- ウ コメディカルとの協調性 ( )
- エ 緊急を要する病態の把握と対応 ( )
- オ 判断困難な事態に対する対応 ( )
- カ 入院治療の適否の判断 ( )

##### （2）具体的目標事項

- ア 外科基本診察法
  - （ア）病歴の聴取 ( )
  - （イ）バイタルサイン、全身状態の把握 ( )
  - （ウ）視診、触診、聴診、打診法
    - a 頭頸部の診察 ( )
    - b 胸部の診察 ( )
    - c 腹部の診察 ( )
    - d 四肢脈管の診察 ( )
  - （エ）他科関連領域の把握 ( )
- イ 修得すべき主な治療法、手技
  - （ア）ベッドサイドでの処置及び治療法
    - a 胃管挿入、胃洗浄 ( )
    - b 導尿 ( )
    - c 人工呼吸、気管内挿管 ( )

- d 心マッサージ、電氣的除細動 ( )
- e 注射法 ( )
- f 採血法 ( )
- g 血管確保(末梢留置針、中心静脈ルート) ( )
- h 動脈ラインの確保 ( )
- (イ) 主な手術手技
  - a 皮膚切開、縫合、止血法、結紮 ( )
  - b 外来小手術 ( )
  - c 局所麻酔法 ( )
  - d 創処置 ( )
  - e 排液法(腹腔、胸腔穿刺) ( )
- ウ 手術室での研修
  - (ア) 具体的目標事項
    - a 術者、介助者の手洗い法、ガウンテクニック ( )
    - b 患者皮膚(術野)の消毒法 ( )
    - c 各種手術への助手としての参加 ( )
  - (イ) その他
    - a 救急蘇生法の理解 ( )

# 脳 神 経 外 科

## 1 研修目標

主要な脳神経外科疾患を理解し、救急処置に関する基本的な知識と技術を修得する。

## 2 研修内容（到達目標）

（１）脳神経外科の救急に関して以下のことができる。

ア 救急患者または家族等に面接して、既往歴、現病歴などを的確に聴取し、記録できる。 ( )

イ 意識障害の程度を把握し、呼吸障害、血圧の異常、痙攣、嘔吐等に対処できる。 ( )

ウ 神経学的検査を適確に行い、記録できる。 ( )

エ 必要な検査を短時間に順序よく指示、施行ができる。 ( )

オ 頭蓋内圧亢進症状を理解し、対処できる。 ( )

カ 入院の要否を決定できる。 ( )

キ 帰宅させる場合には、注意事項や今後の指示を適切に与えることができる。 ( )

（２）神経放射線に関して以下のことができる。

ア 頭部単純撮影、頸部単純撮影の適応を述べることができ、主要な所見を指摘できる。 ( )

イ 頭部ＣＴ検査、ＭＲＩ検査の適応が決定できる。 ( )

ウ 頭部外傷、脳血管障害の主なＣＴ所見が把握でき、診断できる。 ( )

エ 脳血管撮影の適応と脳主幹動脈病変（脳動脈瘤を含む）が診断できる。 ( )

（３）頭部外傷、脳血管障害における神経脱落症状、痙攣等に関し以下のことができる。

ア 痙攣に対し、適確に診断、処置ができる。 ( )

イ 神経症状の予後をある程度推測できる。 ( )

ウ 急性期に後遺症を考慮に入れた処置を行うことができる。 ( )

エ リハビリテーションの見込みとＡＤＬの予後を患者、家族にある程度説明できる。 ( )

（４）緊急手術の必要性について述べることができ、その術前検査を適切に指示できる。 ( )

（５）穿頭術、脳室腹腔シャント、開頭等に参加し、脳神経外科の管理の基本を修得する。 ( )

### 3 . 麻酔科研修プログラム

#### 1 研修目標

- ( 1 ) 合併症のない症例の術中管理を指導医のもとで実施する能力を修得する。
- ( 2 ) 救急蘇生に必要な最低限の知識および手技を修得する。

#### 2 研修内容 (到達目標)

- ( 1 ) 術前診察を通じて患者の全身状態を評価し、問題点を把握できる。 ( )
- ( 2 ) 手術や患者の状態に応じた適切な麻酔法を選択できる。 ( )
- ( 3 ) 麻酔に用いられる基本的な薬剤の薬理作用を説明できる。 ( )
- ( 4 ) 患者および家族に、麻酔法や合併症について適切な説明、指導ができる。 ( )
- ( 5 ) 救急蘇生に必要な薬剤を適切に使用できる。 ( )
- ( 6 ) 各種モニターの基本的な原理を理解し、データの正しい解釈ができる ( )
- ( 7 ) バイタルサインの変動を察知し、適切な対応がとれる。 ( )
- ( 8 ) 人工呼吸器の基本的なモードの選択と設定ができる。 ( )
- ( 9 ) 以下の手技を確実に実施できる。
  - ア 末梢静脈路の確保 ( )
  - イ 気道の確保および人工呼吸
    - (ア) マスクによる用手人工呼吸 ( )
    - (イ) 経口および経鼻エアーウェイの挿入 ( )
    - (ウ) ラリngeアル・マスクの挿入 ( )
    - (エ) 気管内挿管 (経口・経鼻) ( )
  - ウ 採血 (動脈血・静脈血) ( )
  - エ 胃管の挿入 ( )
  - オ 膀胱カテーテルの挿入 ( )
  - カ 脊椎麻酔 (腰椎穿刺) ( )
  - キ 腰部および仙骨部硬膜外麻酔 ( )

## 4 . 小児科研修プログラム

将来いずれの診療科を専門にするかによらず、小児のプライマリ・ケアを行い得るための基本的な知識と技術を修得する。

### 1 一般的研修目標

( 1 ) 小児診療に必要な小児の特性を理解する。

ア 小児は発育・発達の上にあることを認識し、正常な身体発育、精神発達の概要を理解し、明らかな発育・発達の異常を指摘できる。 ( )

イ 小児に不安を与えないように、年齢に応じた対応ができる。 ( )

ウ 保護者から、発病の状況、症状の経過、成長発達歴、既往歴、予防接種歴などを要領よく聴取し、的確な記載ができる。 ( )

( 2 ) 小児に対する基本的な診療技術を体得し、重要な小児疾患については診断・治療の概要を理解する。

ア 栄養状態、意識状態、活動性、脱水や呼吸障害の有無などの全身状態を把握できる。 ( )

イ 咽頭、胸部、腹部などの局所理学的所見を的確に把握し、正確な用語で記載できる。 ( )

ウ 小児科外来診療で日常遭遇することが多い急性上気道炎、急性胃腸炎などの診療と保護者への的確な指導ができる。 ( )

エ 突発性発疹、麻疹、風疹、溶連菌感染症、水痘などの発疹症の鑑別ができ、保護者に一般的経過、合併症などを説明できる。 ( )

オ 入院治療を要するもので比較的高頻度または重要な小児疾患の診断と治療の概要を理解する。肺炎、気管支炎、急性虫垂炎、川崎病など ( )

( 3 ) 小児の救急初期医療ができるようにする。

ア 一般救急患者の一次医療を行い、その中で二次医療を要する状態かどうかの判断ができるようにする。 ( )

イ 熱性痙攣の特徴を理解し、髄膜炎や脳炎のような重篤な中枢神経疾患のおそれがないかどうか判断することができる。 ( )

ウ 呼吸障害やチアノーゼの有無を正しく把握できる。 ( )

エ 腹痛、嘔吐などの消化器症状の強い患者について、腹部所見を正しくとり、緊急性のある疾患の場合に少なくとも疑いをもつことができるようにする。 ( )

( 4 ) 新生児の救急と新生児集中治療を指導者の下で経験する。

ア ハイリスク分娩や緊急帝王切開に指導者とともに立ち会い、新生児仮死の蘇生を経験する。 ( )

- イ 異常新生児の救急搬送に指導者に同行する。 ( )
- ウ 低出生体重児や呼吸障害をもった新生児の集中治療を指導者の  
下で経験する。 ( )

## 2 修得すべき検査技法

- ( 1 ) 一般小児の静脈採血ができる。 ( )
- ( 2 ) 指導者のもとで腰椎穿刺および骨髄穿刺ができる。 ( )
- ( 3 ) 年齢に応じたマンシェットを選択し、正しく血圧測定ができる。 ( )
- ( 4 ) 胸部単純 X 線写真で肺炎、胸水の貯留、無気肺、肺気腫、気胸の  
所見を指摘できる。 ( )
- ( 5 ) 腹部単純 X 線写真で消化管ガス像の所見を述べるができる。 ( )
- ( 6 ) 自ら心電計を操作して心電図を撮ることができる。 ( )

## 3 治療法と治療手段

- ( 1 ) 小児の年齢別薬用量を理解し、それに基づき一般薬剤を処方できる。 ( )
- ( 2 ) 乳幼児に対する薬剤の服用法、使用法について、保護者の指導がで  
きる。 ( )
- ( 3 ) 年齢、疾患、状態などに応じて適切な輸液の種類と量を指示するこ  
とができる。 ( )
- ( 4 ) 新生児を除く一般小児の血管（静脈）確保ができる。 ( )
- ( 5 ) その危険や意義を理解したうえで、静脈内、皮下および筋肉内注射  
ができる。 ( )
- ( 6 ) 重要な小児救急疾患の基本的知識と治療手技に習熟する。
- ア 緊急蘇生を要するかどうかをすばやく判断し、気道確保・B ag &  
Maskによる人工換気・胸骨圧迫式の心マッサージを行うことが  
できる。 ( )
- イ 脱水症に対して、輸液が必要かどうか判断し、必要な場合には応  
急処置ができる。 ( )
- ウ 痙攣中の小児に対して、抗痙攣剤の投与を含めた救急処置ができる。  
( )
- エ 気管支喘息発作の応急処置ができる。 ( )
- オ 腸重積症を診断し、高圧バリウム浣腸または空気整腹を行うこと  
ができる。 ( )
- カ 異物誤飲に対して胃洗浄ができる。 ( )

## 5 . 産婦人科研修プログラム

### 1 研修目標

一般臨床医として産婦人科領域の救急に対処し得る知識と技術を身につける。

### 2 産科

まず正常妊娠、正常分娩を観察、理解する。それをもとに妊娠、分娩、産褥期の患者を診察し、専門医に移管する必要性および時期を判断し、必要な処置を行う技術を修得する。

- ( 1 ) 産科救急患者または家族などに面接し、診断に必要な情報を聴取し、記録できる。 ( )
- ( 2 ) 産科的一般診察を行い、その結果を解釈できる。 ( )
- ( 3 ) 流早産の応急処置ができる。 ( )
- ( 4 ) 正常分娩の介助（会陰側切開を含む）ができる。 ( )
- ( 5 ) 分娩直後の新生児の処置ができる。 ( )
- ( 6 ) 妊、産、褥婦の出血に対する応急処置ができる。 ( )

### 3 婦人科

婦人科の救急患者を診察し、適切な初期診断を行うことのできる能力を修得するとともに、専門の婦人科医に移管するまでの応急処置を行う技術を修得する。

- ( 1 ) 婦人科救急患者または家族などに問診し、診断に必要な情報を聴取し、記録できる。 ( )
- ( 2 ) 婦人科的一般診察を行い、その結果を解釈できる。 ( )
- ( 3 ) 性器出血の応急処置ができる。 ( )
- ( 4 ) 腹腔内出血の有無を早急、正確に判断できる。 ( )
- ( 5 ) 骨盤内腫瘍の茎捻転および破裂を他の急性腹症とある程度鑑別し、緊急手術の必要性を判断し、専門の婦人科医に送ることができる。 ( )

< その他特筆事項 >

- 1 . 分娩数は月 25 - 30 件ほどであり、研修に必要な症例数は十分満たせると考える。帝王切開はもちろんのこと、必要に応じ吸引・鉗子分娩や骨盤位牽出術も行っている。
- 2 . 地域周産期医療システム（静岡県西部）においては当院は「二次施設」に相当し、近医からの母体搬送受け入れ、ならびに高次施設への母体搬送の双方を経験できる。
- 3 . 腫瘍に関しては、初期子宮頸癌、多くの子宮体癌・卵巣癌は当院で手術および化学療法を行っている。進行頸癌は、当院に放射線治療設備がないこともあり、他院に紹介している。
- 4 . 不妊症は力を入れている分野であり、数十名の通院患者がいる。排卵誘発や人工授精なども数多く経験できる。体外受精に関しては現在（平成 15 年 3 月）導入を検討中である。
- 5 . 手術は開腹手術・腔式手術はもとより、腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術も行っている。
- 6 . 科の行事として、産婦人科カンファレンス（週 1 回）、小児科とのカンファレンス（週 1 回）、抄読会（月 3 回）を行っている。

## 6 . 精神科研修プログラム

### 研修における一般目標

医師として、精神科臨床において重要な事は2点に集約できる。ひとつは、患者に対して「関与しながらの観察」を続けながら、疾患のみにとらわれない全人的医療を行なうべきこと、もうひとつは、精神科的治療とは家族、看護、他の医療・介護スタッフと連携をとりながらのチーム医療であることを忘れないことである。「関与しながらの観察」とは、患者を単に治療対象として客観的に見るのではなく、患者と接する中で治療者側の言動が常に患者に影響を及ぼし、また患者の言動も治療者側に影響を与えているという相互交通性を持つ治療関係の中では、少なからず治療者側の主観が混入せざるを得ないという事実を理解し、治療者がそうした治療構造に身を置くことを通じて初めて、患者のダイナミックな心的世界を理解できることをいう。そしてそれを適切に成すには、まずは治療者側が自分自身の内面の洞察を行い、性格や思考の特徴を十分に把握していることが前提となる。

以上を踏まえて、精神科研修では単に学門的な疾患知識や手技の習得だけでなく、実際の臨床現場の中での経験を重ねることで患者の人間の理解を深め、同時に治療的な判断力や行動力を身に付けていくことが望まれる。また研修を通じて研修者自身の対人技能が向上し、医師としての人間的成長が促されることを期待している。

### 研修における行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度

#### 1 患者 - 医師関係

「関与しながらの観察」を通して患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために、

- 1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、かつ社会規範と照合して検討することができる。
- 2) 医師、患者、家族が納得できるインフォームドコンセントを、患者の治療の不利益にならない範囲で実施できる。
- 3) 患者・家族に対して首尾一貫した関心、優しさ、共感を示すことができる。
- 4) 治療過程において生じた「転移」や「逆転移」を認識し、適切に対応できる。
- 5) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮が十分にできる。

#### 2 チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために、

- 1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。
- 2) 上級および同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- 3) 関係機関や諸団体の担当者とのコミュニケーションがとれる。
- 4) 各職種、機関の立場に関心と理解を示し、相互の関係が円滑になるよう調整を計ることができる。

### 3 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行いつつも、問題を患者の症状のみに還元せずに、問題の本質を見極め現実的な解決策を導き出すために、

- 1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる。
- 2) 患者を取り巻く人間関係内での精神力動や、影響を与えうる社会規範を的確に捉えることができる。
- 3) 自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。
- 4) 臨床研究や治験の意義を理解し、それらの有用性と限界を正しく見極めることができる。
- 5) 自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。

### 4 安全管理

患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身につけ、危機管理に参画するために、

- 1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。
- 2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルに沿った上で行動し、さらにより適切な行動を目指すことができる。
- 3) 精神疾患の特殊性に配慮しながら、危機介入と安全管理が広く治療構造全体で過不足なく行われるよう留意することができる。

### 5 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、

- 1) 相手の性・年代を問わないコミュニケーションスキルを身につけ、患者の受診動機、受療行動を把握できる。
- 2) 患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴、病識の有無）の聴取と記録ができる。
- 3) 医療面接自体が治療的行為であるべきことを忘れずに、受容と共感を基本姿勢にして患者・家族への適切な指示、指導ができる。

### 6 症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために、

- 1) 症例呈示と討論が「自分の言葉」でできる。
- 2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集會に積極的に参加する。

### 7 診療計画

保健・医療・福祉・介護の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために、

- 1) 診療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む）を医師以外の職種にも分かりやすく作成できる。
- 2) 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し参考にする。
- 3) 精神科的危機介入や緊急性の高い入院の適応を判断できる。
- 4) 我が国の精神医療史を理解し、症例ごとに入退院の適応を判断できる。
- 5) QOLを考慮にいたった総合的な管理計画（中間的社會復帰施設、デイケア、在宅支援センター、介護を含む）へ参画する。

## 8 医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために、

- 1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。
- 2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。
- 3) 精神障害者年金、精神障害者手帳を理解し、適切に診療できる。
- 4) 精神保健福祉法の趣旨を理解し、適切に診療できる。
- 5) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。

### 研修における経験目標

#### A 経験すべき診察法・検査・手技

##### 1 基本的な精神科的診察法

- 1) 受容と共感の姿勢を一貫して診察を行うことができる。
- 2) 患者の話を「聞く」ことを第一とする。
- 3) 治療者側の発言は治療的であるよう心がけ、患者にとって侵襲的な発言にならないよう細心の注意を払うことができる。
- 4) 患者の表情、態度、発言、行動等に五感を働かせて注目することができる。かつ直感や印象を大切にすることができる。
- 5) 以上によって得られた情報を、正確に診療録に記録できる。

##### 2 基本的な検査・手技

- 1) 心理検査の意義・目的・内容を理解し、その結果を解釈することができる。
- 2) 神経学的検査の意義・目的・手法を理解して行い、検査結果を解釈することができる。
- 3) 神経心理学的検査の意義・目的・手法を理解して行い、検査結果を解釈することができる。
- 4) 脳脊髄液検査の意義・目的・手法を理解して行い、検査結果を解釈することができる。
- 5) 脳波検査の意義・目的・手法を理解して行い、検査結果を解釈することができる。
- 6) 脳画像診断（CT・MRI等）の意義・目的を理解して行い、検査結果を解釈することができる。

##### 3 基本的な精神科的治療法

- 1) 薬物療法を症状に合わせて立案し、実施することができる。
- 2) 個人精神療法を症状に合わせて立案し、実施することができる。
- 3) 集団精神療法の適応を判断し、実施することができる。
- 4) 作業療法やSST(Social skills training)の適応を判断し、その効果を評価できる。
- 5) 行動療法の適応を判断し、実施することができる。
- 6) 電撃けいれん療法の適応を判断し、実施することができる。
- 7) デイケアなどの適応を判断し、その効果を評価できる。
- 8) 家族療法の適応を判断し、実施することができる。
- 9) チーム医療を立案し、実施することができる。

#### 4 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

- 1) 記述精神医学の考え方に則り、安易に専門用語の記載に留まることなく、患者の「生の言葉」や治療者側の「自分の言葉」を大切にされたカルテ記載と管理ができる。
- 2) 入院紹介や退院時サマリーについては、治療者側の方針や見解（症状の見立て、選択した治療法の根拠、経過、治療予後の見立て等について）が第三者にも理解しうるように作成し、管理できる。
- 3) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
- 4) 精神科関連の診断書や病状報告書等について、その趣旨を正しく理解した上で作成し、管理できる。
- 5) 紹介状と紹介状への返信を、受け取り側の精神科的専門知識を計りながら、分かりやすく作成でき、それを管理できる。

#### B 経験すべき症状・病態・疾患

##### 1 頻度の高い症状

- 1) 全身倦怠感、食欲不振、体重減少、頭痛、めまい、動悸、歩行障害、排尿障害等の頻度の高い身体症状について、身体科的側面と精神科的側面の両面から原因となる可能性を検討することができ、必要に応じて他科に適切にコンサルトすることができる。
- 2) 不眠、不安、抑うつ等の頻度の高い精神症状について、原因となる精神疾患の鑑別ができ、また身体的原因（器質性精神病、症状精神病）の可能性も検討することができる。また、それを受けて初期治療が適切にできる。

##### 2 緊急を要する症状・病態（精神科領域の救急）

- 1) 精神科的救急入院時、精神保健福祉法を正しく理解した上で入院の適応を判断でき、必要に応じて精神保健指定医の診察を仰ぐことができる。
- 2) 自殺企図（縊首、外傷、薬物）への身体科的対応及び精神科的対応についての判断が適切かつ迅速にでき、必要に応じて他科コンサルトすることができる。
- 3) 幻覚・妄想下の暴力や興奮患者に対して、適切に精神療法的アプローチができ、効果的な薬物療法を選択でき、静穏化までの見立てや留意点を家人や看護に説明することができる。
- 4) 緊張病候群や錯乱状態の原因を外因性、内因性、心因性の観点から分別し、それに応じた適切な治療法の選択乃至は他科へのコンサルトを依頼することができる。
- 5) アルコール急性中毒に対して適切な身体管理と合併症の有無を検索でき、必要に応じて他科に適切にコンサルトすることができる。
- 6) 悪性症候群の鑑別が適切にでき、それへの対処（原因薬剤の中止と身体管理・合併症予防）ができる。必要に応じて他科に適切にコンサルトすることができる。
- 7) てんかん重積に対して適切な薬物選択による発作の抑制と、身体管理・合併症予防ができる。

##### 3 経験が求められる疾患・病態

- 1) 症状精神病、せん妄状態
- 2) 認知症
- 3) アルコール依存症

- 4) うつ病
- 5) 統合失調症
- 6) 不安障害（パニック障害）
- 7) 身体表現性障害、ストレス関連障害

### 研修指導体制

- 1) 教官一名が研修医一名に対して専任指導医として全期間を通して研修の責任を負う。
- 2) 担当患者は、専任指導医が割り当てる。
- 3) 担当疾患に関する必要最低限の文献・資料提供を主治医か指導医が行う。
- 4) 入院患者の診察、検査、治療に関する直接的な指導・助言は主治医が行う。
- 5) 専任指導医は研修医の研修目標の達成の進展をチェックし、主治医に適切な指示を与えるか、研修医に直接指導・助言を行う。

### 研修方略

- 1) オリエンテーション（初日に専任指導医が行う）
  - a. 精神医療の概略説明（歴史、総合病院精神科の役割等について）
  - b. 精神科治療の概略説明（簡易精神療法、薬物療法、社会復帰療法について）
  - c. 精神科研修プログラム説明
  - d. 精神科病棟・外来・デイケア・医局の機構説明
  - e. パソコン入力（処方・検査・他）の説明
  - f. 入院担当患者の割り当て
- 2) 外来研修（専任指導医および主治医）
  - a. 外来新患の予診聴取
  - b. 外来初診・再診の見学
- 3) 病棟研修（専任指導医および主治医）
  - a. 入院担当患者の診療
  - b. 診療業務日誌(カルテ)の記載
- 4) 新入院患者の症例検討会（毎週火曜日13:30～）
- 5) 認知症疾患センターカンファレンス（毎週木曜日16:30～）
- 6) デイケアカンファレンス（毎週火曜日15:00～）
- 7) 診療部カンファレンス（毎週水曜日17:30～）

## 研修内容と評価

( ) 内に研修者の自己評価、< > に指導医の評価を記入する。

A : 目標に到達した    B : 目標に近い    C : 目標から遠い

### 1. 習得すべき主な知識

( 1 ) 主要な精神疾患 ( 状態像 ) についての知識と理解を得る。

- a. 統合失調症 ( ) < >
- b. うつ病 ( ) < >
- c. 不安障害 ( パニック障害 ) ( ) < >
- d. 身体表現性障害、ストレス関連障害 ( ) < >
- e. アルコール依存症 ( ) < >
- f. 認知症 ( ) < >
- g. 症状精神病、せん妄状態 ( ) < >

( 2 ) 主要な精神科的検査についての知識と理解を得る。

- a. 脳波検査 ( ) < >
- b. 頭部 C T ( ) < >
- c. 頭部 M R I ( ) < >
- d. 髄液検査 ( ) < >
- e. 改訂版長谷川式簡易痴呆スケール ( ) < >
- f. ウェックスラー成人用知能検査 ( ) < >

( 3 ) 主要な精神科的治療法についての知識と理解を得る。

- a. 精神療法 ( ) < >
- b. 薬物療法 ( ) < >
- c. 社会復帰療法 ( ) < >

( 4 ) 主要な向精神薬についての知識と理解を得る。

- a. 抗精神病薬 ( ) < >
- b. 抗うつ薬 ( ) < >
- c. 気分安定薬 ( 炭酸リチウム他 ) ( ) < >
- d. 抗不安薬 ( ) < >
- e. 睡眠薬 ( ) < >
- f. 抗てんかん薬 ( ) < >
- g. 抗パーキンソン病薬 ( ) < >

( 5 ) 主要な精神科的社会復帰資源について知識と理解を得る。

- a. デイケア ( ) < >
- b. グループホーム ( ) < >
- c. 援護寮 ( ) < >
- d. 福祉ホーム ( ) < >
- e. 生活支援センター ( ) < >
- g. 共同作業所 ( ) < >

( 6 ) 精神科関連法規・制度について基本的な知識と理解を得る。

- a. 精神保健福祉法 ( ) < >

- b. 精神障害者手帳・年金 ( ) < >
- c. 通院医療費公費負担制度 ( ) < >

## 2. 習得すべき主な検査と診断の技能

(1) 主要な精神科的検査について重要な異常を見逃さない程度の判断ができる。

- a. 脳波検査 ( ) < >
- b. 頭部CT ( ) < >
- c. 頭部MRI ( ) < >
- d. 髄液検査 ( ) < >
- e. 改訂版長谷川式簡易痴呆スケール ( ) < >
- f. ウェックスラー成人用知能検査 ( ) < >

(2) 病歴聴取に基づいて、主要な精神疾患の鑑別診断ができる。あるいはその疑いが持てる。

- a. 統合失調症 ( ) < >
- b. うつ病 ( ) < >
- c. 不安障害(パニック障害) ( ) < >
- d. 身体表現性障害、ストレス関連障害 ( ) < >
- e. アルコール依存症 ( ) < >
- f. 認知症 ( ) < >
- g. 症状精神病、せん妄状態 ( ) < >

## 3. 習得すべき主な治療の技能

(1) 外来初診患者の病歴聴取が適切にできる。 ( ) < >

(2) 診断に基づいた治療方針を立てることができる。 ( ) < >

(3) 簡易な支持的精神療法が施行できる。 ( ) < >

(4) 症状に応じた基本的な薬物療法が施行できる。 ( ) < >

(5) 患者と家族に主要な精神疾患について説明できる。

- a. 統合失調症 ( ) < >
- b. うつ病 ( ) < >
- c. 不安障害(パニック障害) ( ) < >
- d. 身体表現性障害、ストレス関連障害 ( ) < >
- e. アルコール依存症 ( ) < >
- f. 認知症 ( ) < >
- g. 症状精神病、せん妄状態 ( ) < >

(6) 患者や家族に受容と共感の態度で接し、適切なコミュニケーションがとれる。

( ) < >

(7) 看護、介護、PSW、OT、保健婦、その他のスタッフと適切なコミュニケーションがとれる。

( ) < >

## 4. 症例報告

(1) 担当患者の症例報告が適切にできる。 ( ) < >

(2) 担当疾患に関する文献・資料を適切に収集できる。 ( ) < >

(3) 担当していない症例についてもある程度の討議ができる。 ( ) < >

## 7. 地域医療研修プログラム

### 1 目的

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、  
患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）につ  
いて理解し、実践する。

診療所の役割（病診連携への理解を含む）について理解し、実践する。  
へき地医療について理解し、実践する。

### 2 一般目標

- (1) これまでの研修医教育は、主として入院診療の場で行われてきた。入院診療の対  
象は比較的重篤な疾患の急性期である。よって、軽症疾患や慢性期治療を経験する。
- (2) 病院と診療所が機能分化して病診連携を緊密に行うことが今後さらに必要とされ、  
この観点から診療所の実態を経験する。
- (3) 医療分野における「へき地」とは、交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に  
恵まれない山間地、離島その他の地域のうち、医療の確保が困難である地域をいう。  
このような地域における医療の実態を経験する。

### 3 行動目標

#### (1) 診療所

- 新患の common disease を数多く経験する。 ( )
- 病院への紹介、病院からの逆紹介の実際を知る。 ( )
- 生活習慣病に対する慢性期チーム医療の現場に参加する。 ( )
- 通院患者の時間外急変への対応の実際を経験する。 ( )
- チーム医療としての訪問診療（診療所の医師と看護師に加えて、介護施設やヘルパーとの連携）の現場を経験する。 ( )
- 在宅での緩和、終末期医療と臨終までを経験する。 ( )
- 診療所における医療の限界（守備範囲）を知る。 ( )

#### (2) 中小・へき地病院

- 急性期病院と療養型病院、介護福祉施設の連携の現場を経験する。 ( )
- チーム医療としての訪問診療（病院の医師と看護師に加えて、訪問看護ステーション、介護施設やヘルパーとの連携）の現場を経験する。 ( )
- 在宅での緩和、終末期医療と臨終までを経験する。 ( )
- へき地医療の現場を体験する。 ( )

### 4 研修期間

1回の研修は、原則として1か月以内とする。

## 8 . その他研修プログラム

### 整 形 外 科

#### 1 研修目標

プライマリ・ケアに必要な整形外科的手法の基本的な知識、及び技術を習得することを目標とする。

#### 2 研修内容（到達目標）

##### （１）整形外科における基本的診察能力を身につける。

ア 疾患を念頭においてアナムネーゼをとり、必要な記載ができる。 ( )

イ 一般的整形外科診察法ができる。 ( )

（関節可動域測定、神経学的診断法など）

ウ 的確な部位のレントゲン検査の指示ができる。 ( )

エ レントゲンにて簡単な外傷や関節・脊椎疾患の判読ができる。 ( )

オ 整形外科における補助診断（脊椎造影、MRI、CT、超音波診断、筋電図など）の理解、必要性の判定ができる。 ( )

##### （２）外傷

ア 日常遭遇することの多い骨折や脱臼の典型例について、レントゲンを判読できる。 ( )

イ 骨折や脱臼の一時的な固定法（シーネ固定、三角巾固定）ができ、患者の移動に際し、介助ができる。 ( )

ウ 主訴、病歴及び臨床所見から疑われるべき、骨折、脱臼、捻挫を予見することができ、かつ合併症について理解し、検査の進め方についても指示できる。 ( )

エ 肘内障の整復ができる。 ( )

オ 神経損傷、腱損傷の診断ができる。 ( )

カ 経過観察として良い外傷と、整形外科医にコンサルトすべき外傷を判断できる。 ( )

キ 救急外来での外傷に対して、開放創への適切な処置（デブリードマン、縫合を含め）及び全身状態の把握ができる。 ( )

##### （３）脊椎疾患

ア 臨床所見により、脊椎疾患の診断（レベル診断も含む）ができる。 ( )

イ 脊椎脊髄損傷の診断と初期対応について理解している。 ( )

##### （４）関節疾患

ア 変形性関節症の診断と治療法について理解できる。 ( )

イ 慢性関節リウマチの診断と治療について理解できる。 ( )

( 5 ) その他

- ア 骨腫瘍や軟部腫瘍の鑑別診断をいくつかあげることができる。 ( )
- イ 手指損傷を含めた手指疾患に対する治療法の特殊性について理解できる。 ( )
- ウ 先天性股関節脱臼、先天性内反足を主とする小児整形外科疾患の診断と治療について理解できる。 ( )
- エ 骨粗しょう症を含む老人性疾患について理解できる。 ( )

# 皮膚科

## 1. 研修目標

- ア 一般的皮膚疾患を理解し、その診断、検査、治療の基本を修得する。
- イ 種々の皮膚病変を有する患者を診察し、専門的治療を必要とするか否かを判断できる能力を修得する。

## 2. 研修内容（到達目標）

- ア 皮膚病変を観察し、発疹の形態、部位、大きさなどを客観的に記載することができる。 ( )
- イ 一般的皮膚疾患の診断上必要な検査法を修得する。
  - (ア) 真菌検査法 ( )
  - (イ) 皮膚描記法 ( )
  - (ウ) パッチテスト ( )
  - (エ) tzank test ( )
  - (オ) 皮膚生検法 ( )
- ウ 外用療法として、ステロイド外用療法や一般外用療法の作用機序を理解できる。また、その副作用などの使用上の注意を理解できる。 ( )
- エ 全身療法として、抗ヒスタミン剤、抗アレルギー剤、抗ウイルス剤、抗生剤、ステロイド剤の作用機序を理解し、使用できる。また、その副作用などの使用上の注意を理解できる。 ( )
- オ 理学療法及び外科療法の適応を判断し、また治療できる。
  - (ア) 冷凍凝固療法 ( )
  - (イ) 電気焼灼術 ( )
  - (ウ) 切除・縫縮術 ( )
- カ 一般的皮膚疾患の診断、治療を行うことができる。
  - (ア) 湿疹・皮膚炎群 ( )
  - (イ) 浅在性真菌症 ( )
  - (ウ) 急性及び慢性蕁麻疹 ( )
  - (エ) 熱傷（軽傷例） ( )
  - (オ) 薬疹 ( )
  - (カ) 感染症：細菌、ウイルスなど ( )
  - (キ) 良性及び悪性腫瘍 ( )
  - (ク) 褥瘡、外傷処置 ( )
  - (ケ) 全身性疾患の皮膚症状 ( )

# 泌尿器科

## 1. 研修目標

- ア 泌尿器科を専門としない医師として必要な泌尿器科領域の疾患の理解、知識を修得する。
- イ 救急医療における泌尿器科的疾患のプライマリ・ケアの実施能力を育成する。

## 2. 研修内容（到達目標）

- ア 泌尿器科受診患者の予診をとり、その内容を的確に記録する。 ( )
- イ 前立腺の触診により癌と肥大症の鑑別がある程度できる。 ( )
- ウ 男性の導尿ができるようになる。また、挿入困難例では専門医に依頼する必要性が判断できる。 ( )
- エ 膀胱内圧測定、尿流量検査、残尿検査を指導者のもとに施行し、結果を把握できる。 ( )
- オ 内視鏡検査を指導医のもとで実施し、病変の評価ができる。 ( )
- カ D I P , R U G , 尿路性器超音波検査を施行し、基本的読影ができる。 ( )
- キ 病棟回診に指導医と同行して処置を介助する。 ( )
- ク 手術に介助者として参加する。 ( )
- ケ E S W L の操作、患者管理を指導医とともに実施する。 ( )
- コ 尿路性器感染症の病態を理解して、初期治療が実施できる。 ( )
- サ 尿路性器外傷を診断でき、治療方針を立てることができる。 ( )
- シ 尿路結石疝痛発作に対する処置ができる。 ( )

# 眼 科

## 1 研修目標

眼科における基礎的な知識を習得し、眼科領域の救急疾患の初期対応を行う。

## 2 研修内容（到達目標）

- ( 1 ) 病歴聴取を行い、問題点を把握できる。 ( )
- ( 2 ) 目視下で、外眼部・前眼部・眼球運動・対光反応等の基本診療ができる。 ( )
- ( 3 ) 屈折検査・視力検査・調節検査の結果を理解し、説明できる。 ( )
- ( 4 ) 細隙灯顕微鏡を用いて前眼部・中間透光対の検査ができる。 ( )
- ( 5 ) 倒像鏡を用いて、眼底検査ができ、眼底所見の説明ができる。 ( )
- ( 6 ) 蛍光眼底造影の補助を行い、所見の説明ができる。 ( )
- ( 7 ) 眼圧計を用いて眼圧を測定できる。 ( )
- ( 8 ) 点眼薬について、その効果と副作用を説明できる。 ( )
- ( 9 ) 代表的疾患（白内障・緑内障・網膜症）につき、診療の説明ができる。 ( )
- ( 10 ) 各種疾患を分類し、基礎的な説明ができる。 ( )
- ( 11 ) 手術の準備・介助ができる。 ( )
- ( 12 ) 顕微鏡手術の介助ができる。 ( )
- ( 13 ) 指導医の監督下で、救急患者に対する初期診療ができる。 ( )

# 耳 鼻 咽 喉 科

## 1 研修目標

一般臨床医として耳鼻咽喉科疾患に対して基本的な診療ができるための知識と技術の修得を目標とする。

## 2 研修内容（到達目標）

### （１）一般診察

- ア 耳鏡、鼻鏡、喉頭鏡による視診ができる。 ( )
- イ ファイバースコープによる診察ができる。 ( )
- ウ 頸部リンパ節、耳下線、甲状腺などの触診ができる。 ( )

### （２）耳鼻咽喉科検査法の意義が理解でき主要所見を指摘できる。

- ア 聴力検査（純音聴力、語音聴力）ティンパノグラム ( )
- イ 単純レントゲン検査 ( )
- ウ CT、MRI ( )
- エ 平衡機能検査 ( )

### （３）耳鼻咽喉科手術の適応、術式が理解できる。

- ア 扁桃摘出術 ( )
- イ 鼓膜切開術、鼓膜換気チューブ留置術 ( )
- ウ 鼻副鼻腔手術 ( )
- エ 甲状腺手術 ( )
- オ 鼓室形成術 ( )
- カ 喉頭微細手術 ( )
- キ 気管切開術 ( )

### （４）緊急性疾患への対応ができる。

- ア 簡単な鼻出血に対する処置 ( )
- イ 気管支食道異物の診断 ( )
- ウ 上気道感染症の診断 ( )

# 放射線科

## 1 研修の目標

診断装置の原理と臨床解剖とを含む放射線治療に関する一般臨床医に必要な基礎的知識と技能を修得する。

日常的放射線検査（X線検査、核医学検査）の適応と内容を理解し、適切な検査指示ができる。

得られた検査結果から主要な異常所見を指摘でき、これに基づき鑑別診断を挙げる。また、放射線障害の予防について理解し、実施する。

## 2 研修内容（到達目標）

### （1）基本的事項

- ア 主要な異常所見を指摘、表現し、鑑別診断を挙げるができる。（        ）
- イ 日常的検査（消化管、尿路撮影）の実際を知り、これを指導医の下に実施できる。（        ）
- ウ 放射線検査による障害、副作用を理解し、それらを考慮しつつ検査計画を立てることができる。（        ）

### （2）放射線診断

#### X線検査

- ア 胸腹部、骨などの単純X線検査を指示する。（        ）
- イ 主な異常所見を指摘する。（        ）

#### 造影検査

- ア 消化管、腎尿路の造影検査を指示する。（        ）
- イ 実際の造影を行う。（        ）
- ウ 造影剤、鎮痙剤の副作用を理解し、事前に十分な問診等を行う。（        ）
- エ 主な異常所見を指摘する。（        ）

#### CT検査

- ア 頭部、頸部、躯幹のCT検査の適応を決定し、指示を出す。（        ）
- イ ダイナミック等の造影が必要なときは、実際に行う。（        ）
- ウ 造影剤の副作用を理解し、事前に十分な問診等を行う。（        ）
- エ 主な異常所見を指摘する。（        ）

#### M R I 検査

- ア 頭部、頸部、躯幹のMRI検査の適応を決定し、指示を出す。 ( )
- イ 入室時の注意を理解する。造影が必要なときは、実際に行う。 ( )
- ウ 検査禁忌を理解し、事前に十分な問診等を行う。 ( )
- エ 主な異常所見を指摘する。 ( )

#### 血管撮影

- ア 血管撮影の適応を決定する。前処置の指示を出す。 ( )
- イ 造影剤の副作用を理解し、事前に十分な問診等を行う。 ( )
- ウ 主な異常所見を指摘する。 ( )

#### ( 3 ) 核医学検査

- ア 基本的な核医学検査法を指示し、その結果を分析する。 ( )
- イ 頻用する核種を列挙する。 ( )
- ウ 各種核医学検査の適応を述べ、指示できる。 ( )
- エ RIの取扱いに注意し、注射する。 ( )
- オ 主な異常所見を指摘する。 ( )

#### ( 4 ) 超音波検査

- ア 超音波検査の指示を出す。 ( )
- イ 実際にプローベを取り扱う。 ( )
- ウ 主な異常所見を指摘する。 ( )